

令和4年度嶺北地域アクションプランの
追加、削除、拡充等（予定項目）

嶺 北 地 域 本 部

令和4年2月8日（火）

令和4年度地域アクションプランの追加・削除等（予定項目）

地域アクションプランへの支援の方向性

新規事業の掘り起こしと担い手の育成、事業が抱える課題の解決を図りながら、地域アクションプランの実現に向けて、産業振興推進地域本部を中心に取り組みを推進していく。

(1) 新規事業の掘り起こしと担い手の育成

- ①発掘支援型アドバイザーと連携して、地域アクションプランへの位置付けを目指す取り組みを掘り起こし
- ②地域が主体となって実施するビジネス研修への支援により、産業振興の取り組みを牽引する担い手を育成

(2) 課題解決に向けた支援

- ①課題解決型アドバイザーと連携して、個別課題の解決を支援
- ②課題一貫支援型アドバイザーと連携して、地域への経済波及効果が大きい案件に対し、全体的な課題の整理・分析及び解決策の検討を一貫して支援

地域アクションプランの増減（▲4）

(1) 追加（新規）： 2件

- 須崎市養殖漁業等のさらなる振興（須崎市）
- 浦ノ内マリパークにおける交流人口の拡大による地域の活性化（須崎市）

(2) 削除（廃止）：▲5件

- 南国市の農園レストランによる地域食材の消費拡大（南国市）
- JA出資型法人（株れいほく未来）を核とする地域活性化の取り組み（土佐町）
- 四万十川源流等中山間資源活用ビジネスの創出（中土佐町）
- 須崎市立スポーツセンターを活用した体験型観光等の推進による地域の活性化（須崎市）
- 須崎市の教育旅行や団体旅行の誘致に向けた体制の整備（須崎市）

(3) 追加（分割）： 0件

(4) 削除（統合）：▲1件

- 中土佐町地域ブランドの創出と販売促進（中土佐町）
- 中土佐町の「うまいもん食わしちやお」商品開発プロジェクト（中土佐町）
→「中土佐町地域ブランドの創出と販売」として統合

地域アクションプラン数 R3年度 224件 → R4年度 220件（▲4）

	R3年度 (第4期Ver.2)	R4年度 (第4期Ver.3)				A P 数
	A P 数 R3.9月時点	増減				
		追加	削除	統合・分割	計	
安芸	30					30
物部川	26		▲1		▲1	25
高知市	23					23
嶺北	25		▲1		▲1	24
仁淀川	34					34
高幡	42	2	▲3	(2→1) ▲1	▲2	40
幡多	44					44
合計	224	2	▲5	▲1	▲4	220

○地域産業クラスタープロジェクト R3年度 19件 → R4年度 18件（▲1）

嶺北地域アクションプラン項目（第4期計画Ver. 2（R3年度）と

No.	現在（令和3年度）	本山町	大豊町	土佐町	大川村	
		15	14	12	10	
1	れいほくブランドの園芸産地の維持	●	●	●	●	
2	JA出資型法人(㈱れいほく未来)を核とする地域活性化の取り組み	●	●	●	●	削除
3	ブランド米「土佐天空の郷」の販売促進	●				
4	直販所「さくら市」を核とした地域活性化	●				
5	銀不老による地域活性化の取り組み		●			
6	本山町施設園芸生産拡大クラスタープロジェクト	●				
7	㈱大豊ゆとりファームを核とした地域産業を持続化させる取り組み		●			
8	土佐あかうしの競争力の確保による肉用牛産業の再興	●	●	●		
9	土佐はちきん地鶏・大川黒牛を活用した畜産業の活性化				●	
10	嶺北地域における林業クラスター化の取り組み	●	●	●	●	
11	れいほくスケルトン(嶺北材の邸別販売)をはじめとする嶺北材の促進	●	●	●	●	
12	嶺北地域内のシソ・ユズの活用による地域振興	●				
13	嶺北地域の特産品販売拡大への支援	●	●	●	●	
14	ぼうむ合同会社による地域資源(木材・米)活用の取り組み	●				
15	碁石茶を中心とした加工品ビジネスの展開		●			
16	嶺北材を生かしたオリジナル木工品の製造・販売による地域活性化			●		
17	嶺北地域で140年続く酒蔵の地産外商を核とした地域の活性化			●		
18	大豊町のジビエを活用した新たな商品開発と販路拡大		●			
19	嶺北地域の連携による交流人口の拡大	●	●	●	●	
20	嶺北広域観光アウトドアの里づくり	●	●	●	●	
21	嶺北地域における山岳観光の推進				●	
22	さめうら湖の活用をはじめとしたスポーツ・ツーリズムの振興	●	●	●	●	
23	集落活動センター西峯におけるビジネス創出による地域活性化の取り組み		●			
24	集落活動センターいしはらの里による地域活性化の取り組み			●		
25	集落活動センター汗見川による地域活性化の取り組み	●				

第4期計画Ver. 3 (R4年度) の対比表

【嶺北地域】

本 山 町	大 豊 町	土 佐 町	大 川 村	No.	改定案(令和4年度)
14	13	11	9		
●	●	●	●	1	れいほくブランドの園芸産地の維持
●				2	ブランド米「土佐天空の郷」の販売促進
●				3	直販所「さくら市」を核とした地域活性化
	●			4	銀不老による地域活性化の取り組み
●				5	本山町施設園芸生産拡大クラスタープロジェクト
	●			6	㈱大豊ゆとりファームを核とした地域産業を持続化させる取り組み
●	●	●		7	土佐あかうしの競争力の確保による肉用牛産業の再興
			●	8	土佐はちきん地鶏・大川黒牛を活用した畜産業の活性化
●	●	●	●	9	嶺北地域における林業クラスター化の取り組み
●	●	●	●	10	れいほくスケルトン(嶺北材の邸別販売)をはじめとする嶺北材の促進
●				11	嶺北地域内のシソ・ユズの活用による地域振興
●	●	●	●	12	嶺北地域の特産品販売拡大への支援
●				13	ぼうむ合同会社による地域資源(木材・米)活用の取り組み
	●			14	碁石茶を中心とした加工品ビジネスの展開
		●		15	嶺北材を生かしたオリジナル木工品の製造・販売による地域活性化
		●		16	嶺北地域で140年続く酒蔵の地産外商を核とした地域の活性化
	●			17	大豊町のジビエを活用した新たな商品開発と販路拡大
●	●	●	●	18	嶺北地域の連携による交流人口の拡大
●	●	●	●	19	嶺北広域観光アウトドアの里づくり
			●	20	嶺北地域における山岳観光の推進
●	●	●	●	21	さめうら湖の活用をはじめとしたスポーツ・ツーリズムの振興
	●			22	集落活動センター西峯におけるビジネス創出による地域活性化の取り組み
		●		23	集落活動センターいしはらの里による地域活性化の取り組み
●				24	集落活動センター汗見川による地域活性化の取り組み

嶺北地域アクションプランの追加・削除・拡充等（予定項目）

■追加

なし

■削除

NO.	アクションプラン名	削除する理由
1	No. 2 JA 出資型法人（(株)れいほく未来） を核とする地域活性化の取り組み（土佐町） 【実施主体】(株)れいほく未来、JA 高知県	(株)れいほく未来において、令和2年度に策定した経営改善計画に基づき、黒字化が見込めない園芸部門から撤退することとなったため削除する。 ※令和3年3月31日撤退（令和3年6月のJA総代会において承認）

■その他(拡充、統合、分割)

なし

削除

嶺北地域アクションプラン

分野

農業

AP 名 (実施地域)	No. 2 JA 出資型法人 (株)れいほく未来) を核とする地域活性化の取り組み (土佐町) ※地域産業クラスター関連 (嶺北畜産クラスタープロジェクト)
実施主体	◎(株)れいほく未来、JA 高知県 (土長地区)
AP への 位置づけ	H22.4 月
事業概要	JA 出資型法人(株)れいほく未来が中山間農業複合経営拠点として、農作業受託や遊休農地等を活用した農業経営、就農希望者の研修事業、畜産経営等を実施することで、地域の担い手の不足や耕作放棄地の解消等の課題を解決し、農業生産の維持確保を図る。

指標	出発点	実績		目標
		R 元	R2	R5
(1)園芸売上高	280 万円 (R 元)	同左		500 万円
(2)研修による新規就農者数 (雇用就農を含む)	4 人 (H28~R 元累計)	同左		4 人 (R2~5 累計)

これまでの主な動き

<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆地域農業を支える取り組み支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農作業受託に係る機械導入による引き受け拡大体制整備(H21~22) ・JA 出資型法人(株)れいほく未来の設立(H23) ・農作業受託の取り組み、研修等担い手育成の取り組み(H24~) ・水稲作業受託を核とした売上高の増加(H28~) ・中山間農業複合経営拠点事業戦略策定に向けた取り組み(H29~) ・農作業受託料金表の作成、生産者へ周知(R 元) <p>◆園芸部門の経営強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業経営事業の安定化と地域農業振興の取り組み(H24~) ・米ナスやピーマン類を中心とした園芸作物への集約(H29~) ・出荷調整作業での農福連携の取り組み (R 元~) <p>◆担い手の確保・育成 (研修事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ事業(H25~、22 回、延べ 104 人参加)による雇用の創出(3 人) 	<p><主な成果></p> <p>◆独立自営就農者数</p> <p>H27 : 累計 0 名 → R 元 : 累計 2 名 (H29:1 名、R 元:1 名)</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・経営の安定化 (部門別経営収支の把握等) ・農家の高齢化に伴う園芸の農作業受託、受託農地 (条件不利地) の増加 ・作業受託の拡大に対応した体制強化 ・農業用施設、農地情報を集約し、担い手へ事業承継する機能の強化 ・研修生の受入及び新規就農者の育成 ・組織間連携による地域農業への支援
---	---

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆地域農業を支える取り組み支援	組織内の人材を活かした農作業受託、農地管理の拡大				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)れいほく未来：事業従事者の労働条件改善、農作業受託体制の整備、オペレーターの確保と育成、生産者への周知 ●県（農業改良普及所等）：経営計画の作成及び改善に係る支援、作業受託体制の検討支援 				
◆園芸部門の経営強化	地域農業を支える仕組みの検討		地域農業を支える仕組みづくり		
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)れいほく未来：作業受託実践農家、集落営農組織等との情報共有、組織間連携の検討、庭先集荷の実施 ●県（農業改良普及所等）：組織間連携の情報提供 		<ul style="list-style-type: none"> ●(株)れいほく未来：組織間連携による農作業受託及び農地管理の試行、庭先集荷の実施 ●県（農業改良普及所等）：組織間連携の実施及び改善支援 		
◆担い手の確保・育成（研修事業）	栽培・経営技術の向上支援				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)れいほく未来：栽培・経営技術の向上、部門別経営収支の把握・分析、経営計画の作成・実行、先進技術の活用、労力確保及び作業体制整備 ●県（農業改良普及所等）：JA、作物部会と連携した栽培技術支援、経営計画作成への支援 				
◆担い手の確保・育成（研修事業）	経営規模拡大				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)れいほく未来：労力に見合った経営規模拡大 ●県（農業改良普及所等）：JA、作物部会と連携した栽培技術支援、経営計画作成支援 				
◆担い手の確保・育成（研修事業）	研修生の確保・育成				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)れいほく未来：研修計画・技術習得支援計画の作成、研修生の募集、指導体制の整備 ●県（農業改良普及所等）：関係機関と連携した募集支援、研修生の栽培技術・経営管理技術習得への支援 				
◆担い手の確保・育成（研修事業）	研修生の独立就農支援				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)れいほく未来：就農準備支援及び就農後のサポート（就農計画作成、農業機械、ハウスの貸借） ●県（農業改良普及所等）：就農準備(就農計画作成、農地・ハウス確保のための調整等)支援、就農後の栽培・経営支援 				

嶺北地域アクションプラン

分野

農業

AP名 (実施地域)	No.1 れいほくブランドの園芸産地の維持 (嶺北地域全域)
実施主体	◎JA 高知県(土長地区・園芸部会、花き部会、コンフィデンスフラワー)、◎大豊とまと生産者、JA 高知県(土長地区)、中山間農業複合経営拠点
APへの位置づけ	H21.4月
事業概要	農業で生活できる所得が得られるよう、「れいほく八菜」「れいほく八花」等の収量・品質を向上させ、販売額の増加を目指す。

指標	出発点	実績		目標
		R元	R2	R5
(1) JA 園芸部販売額	1.7 億円 (R元)	同左		1.8 億円
(2) JA 花き部会・コンフィデンスフラワー販売額	1.3 億円 (R元)	同左		1.5 億円
(3) 大豊とまと販売額	2,000 万円 (R元)	同左		3,000 万円

これまでの主な動き

<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆産地・生産の維持拡大や生産安定に向けた取り組み</p> <p>「れいほく八菜」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビジョン(増収、担い手の育成)達成に向け、産地提案書の作成と指導農業士の認定 ・連作に伴う塩類集積・土壌病害対策の実施 ・増収対策として pF メーターを目安としたかん水管理の導入 ・新規有望品目の導入 <p>「大豊とまと」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標収量(5t/10a)達成に向けた肥培管理と土壌病害対策 ・組織活動(現地検討会、研修会、先進地視察調査、有利販売に向けた情報収集)の実施 <p>「れいほく八花」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・品種登録によるラインナップ増から、新たな販売展開が可能(ノーブル) ・商談会での産地紹介、販売店への PR による消費者の認知の向上(ノーブル) ・標高差を活用したリレー出荷による出荷期間の拡大及び耐暑性品種の検討(オリエンタル系ユリ) ・土壌分析による生理障害の回避(オリエンタル系ユリ) ・立枯病対策として土壌還元消毒等の実施(トルコギキョウ) 	<p>◆生産の維持と担い手の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業受託の推進や就農に向けた支援 <p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆新規就農者の確保(H28～R元.12までの累計) 米ナス2名、甘長トウガラシ3名、ミニトマト4名、花き5名 ◆新規有望品目の導入 甘長トウガラシ7名、53.4a(R元) ◆ノーブル由来の新品種登録：4品種 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業で生活できる所得と担い手の確保 ・高齢農家の作業受託・事業承継体制の整備 ・土壌病害の回避と土づくりの推進 ・収穫作業等での雇用の確保 ・環境制御装置等(日射比例制御かん水装置、早進化)の導入による省力化・高度化の推進 ・ノーブルの球根養成 ・オリエンタル系ユリ等の有望品目・品種選定
---	--

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆産地・生産の維持拡大や生産安定に向けた取り組み	栽培管理の見直し、環境制御・省力化技術の導入				
	<ul style="list-style-type: none"> ●JA 高知県(土長地区・園芸部会、花き部会、コンフィデンスフラワー)、大豊とまと生産者： 高品質生産・省力化技術(自動天窓、日射比例かん水制御装置、作期の早進化等)の検討・確立 環境や状況に対応した塩類集積、土壌病害、高温障害対策等の実践 新規対応策の検討 オリジナル品種の育成・生産拡大、有望品目・品種の選定・導入(れいほく八花) 多様な雇用労力の確保、作業の効率化(カイゼン) PR 販売促進活動の実施(れいほく八花) ●県(農業改良普及所等)： 環境制御・省力化技術、新技術の情報提供、実証ほの運営支援、事業の導入支援 JA 営農指導員と連携した栽培管理指導、新規対応策の実証調査 オリジナル品種の生産拡大に向けた体制作り(れいほく八花) 				
◆生産の維持と担い手の育成	生産を維持する労力補完システムの確立				
	<ul style="list-style-type: none"> ●JA 高知県(土長地区)、中山間農業複合経営拠点： 作業受託体制の確立 ●県(農業改良普及所等)： 作業受託体制の確立に向けた支援 				
	担い手の確保と栽培技術の早期習得及び経営目標の達成				
<ul style="list-style-type: none"> ●JA 高知県(土長地区)、中山間農業複合経営拠点： 空ハウス情報等の集約・共有 担い手への情報提供、産地提案書の活用 栽培技術相談 ●県(農業改良普及所等)： JA 営農指導員と連携した栽培・経営技術指導 担い手の栽培・経営状況の把握 指導農業士の育成・支援 					

嶺北地域アクションプラン

分野

農業

AP名 (実施地域)	No.1 れいほくブランドの園芸産地の維持 (嶺北地域全域)
実施主体	◎JA 高知県(土長地区・園芸部会、花き部会、コンフィデンスフラワー)、◎大豊とまと生産者、JA 高知県(土長地区)、中山間農業複合経営拠点
APへの位置づけ	H21.4月
事業概要	農業で生活できる所得が得られるよう、「れいほく八菜」「れいほく八花」等の収量・品質を向上させ、販売額の増加を目指す。

指標	出発点	実績		目標
		R2	R3	R5
(1) JA 園芸部販売額	1.7 億円 (R元)	1.74 億円		1.8 億円
(2) JA 花き部会・コンフィデンスフラワー販売額	1.3 億円 (R元)	1.38 億円		1.5 億円
(3) 大豊とまと販売額	2,000 万円 (R元)	2,356 万円		3,000 万円

これまでの主な動き

<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆産地・生産の維持拡大や生産安定に向けた取り組み</p> <p>「れいほく八菜」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビジョン(増収、担い手の育成)達成に向け、産地提案書の作成と指導農業士の認定 ・連作に伴う塩類集積・土壌病害対策の実施 ・増収対策として pF メーターを目安としたかん水管理の導入 ・新規有望品目の導入 <p>「大豊とまと」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標収量(5t/10a)達成に向けた肥培管理と土壌病害対策 ・組織活動(現地検討会、研修会、先進地視察調査、有利販売に向けた情報収集)の実施 <p>「れいほく八花」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・品種登録によるラインナップ増から、新たな販売展開が可能(ノーブル) ・商談会での産地紹介、販売店へのPRによる消費者の認知の向上(ノーブル) ・標高差を活用したリレー出荷による出荷期間の拡大及び耐暑性品種の検討(オリエンタル系ユリ) ・土壌分析による生理障害の回避(オリエンタル系ユリ) ・立枯病対策として土壌還元消毒等の実施(トルコギキョウ) 	<p>◆生産の維持と担い手の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業受託の推進や就農に向けた支援 <p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆新規就農者の確保(H28～R3.12までの累計) 米ナス2名、甘長トウガラシ3名、ミニトマト5名、花き7名 ◆新規有望品目の導入 甘長トウガラシ12名、98.5a(R3) ◆ノーブル由来の新品種登録：4品種 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業で生活できる所得と担い手の確保 ・高齢農家の作業受託・事業承継体制の整備 ・土壌病害の回避と土づくりの推進 ・収穫作業等での雇用の確保 ・環境制御技術等(日射比例制御かん水装置、ハウス内温湿度管理)の導入による省力化・高度化の推進 ・ノーブルの球根養成 ・オリエンタル系ユリ等の有望品目・品種選定
---	---

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆産地・生産の維持拡大や生産安定に向けた取り組み	栽培管理の見直し、環境制御・省力化技術の導入				
	<ul style="list-style-type: none"> ●JA 高知県(土長地区・園芸部会、花き部会、コンフィデンスフラワー)、大豊とまと生産者： 高品質生産・省力化技術(自動天窓、日射比例かん水制御装置、作期の早進化等)の検討・確立 環境や状況に対応した塩類集積、土壌病害、高温障害対策等の実践 新規対応策の検討 オリジナル品種の育成・生産拡大、有望品目・品種の選定・導入(れいほく八花) 多様な雇用労力の確保、作業の効率化(カイゼン) PR 販売促進活動の実施(れいほく八花) ●県(農業改良普及所等)： 環境制御・省力化技術、新技術の情報提供、実証ほの運営支援、事業の導入支援 JA 営農指導員と連携した栽培管理指導、新規対応策の実証調査 オリジナル品種の生産拡大に向けた体制作り(れいほく八花) 				
◆生産の維持と担い手の育成	生産を維持する労力補完システムの確立				
	<ul style="list-style-type: none"> ●JA 高知県(土長地区)、中山間農業複合経営拠点：作業受託体制の確立 ●県(農業改良普及所等)： 作業受託体制の確立に向けた支援 				
担い手の確保と栽培技術の早期習得及び経営目標の達成					
<ul style="list-style-type: none"> ●JA 高知県(土長地区)、中山間農業複合経営拠点： 空ハウス情報等の集約・共有 担い手への情報提供、産地提案書の活用 栽培技術相談 ●県(農業改良普及所等)： JA 営農指導員と連携した栽培・経営技術指導 担い手の栽培・経営状況の把握 指導農業士の育成・支援 					

嶺北地域アクションプラン		分野	農業
AP名 (実施地域)	No.3 ブランド米「土佐天空の郷」の販売促進 (本山町)		
実施主体	◎本山町特産品ブランド化推進協議会、(一財)本山町農業公社、本山町		
APへの位置づけ	H21.4月		
事業概要	農家の高齢化によって、(一財)本山町農業公社が管理する農地面積は増加している。公社では農地を守るため、米の販売価格の向上を目指し、ブランド米「土佐天空の郷」の生産安定と販路拡大、ブランド力の向上や省力化を目的としたスマート農業に取り組む。		

指標	出発点	実績		目標
		R元	R2	R5
「土佐天空の郷」、「天空の棚田米」合計販売額	0.6億円 (R元)	同左		1億円

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆ブランド米の生産維持、販売促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業公社が全量買い取りする仕組みの構築(H21) ・ブランド化に向けた栽培技術の向上 ・ブランド米の生産増、販売拡大 ・販売促進に向けた取り組み(H22～) ・コンクールへの出品(H21～) ・消費者との交流(田んぼアート等)による産地のファンづくり ・耕作放棄地の解消を目指した農地借り入れ、農作業受託の拡大、受託料金等の見直し ・定期的な研修会の開催、生産誘導による人材の育成確保 ・色彩選別機、食味計等の導入(H21～23) <p>◆スマート農業の推進による栽培管理技術の向上及び省力化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水田センサー等を活用した水稻栽培管理の省力化と品質向上の検討(H29、水田センサー100台導入) ・水田センサー、ほ場管理アプリケーションの導入(H29) ・ドローンによる葉色測定・生育診断 <p>◆おにぎり製造販売事業等による収益拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本山町みらい創造協議会策定委員会によるおにぎり事業展開に向けた検討(R元～) 	<p><主な成果></p> <p>◆ブランド米の地位を確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「お米日本一コンテスト in しずおか」で受賞(H22:最優秀賞、H27:金賞、H28:実行委員会会長賞(特別最高金賞)) ・(一財)日本穀物検定協会の食味ランキングで高知県北地区「にこまる」が特A受賞(H29、30) ・米専門店を中心に取引先が全国100店舗以上に拡大 <p>◆生産者価格(玄米一等米)の向上</p> <p>10,000円/30kg(～H28) → 10,250円/30kg(H29～)</p> <p>◆スマート農業の推進</p> <p>水位センサーによる、水の見回り負担の軽減 「ヒノヒカリ」、「にこまる」の収穫適期指標の作成</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産者の確保や需要に対する生産量不足への対応 ・栽培基準の見直し ・スマート農業の推進による栽培管理技術の向上及び省力化 ・農業公社の収益拡大

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆ブランド米の生産維持、販売促進	「土佐天空の郷」栽培基準の見直し <ul style="list-style-type: none"> ● 本山町特産品ブランド化推進協議会、(一財)本山町農業公社：栽培基準の見直しに関する会議の開催 ● 県（農業改良普及所等）：栽培基準見直しに向けた実証支援 		見直された「土佐天空の郷」栽培基準の実施 <ul style="list-style-type: none"> ● 本山町特産品ブランド化推進協議会、(一財)本山町農業公社：安定生産支援、販売促進活動 ● 県（農業改良普及所等）：個別巡回、現地検討会、個人面談による栽培管理指導 		
	生産者の確保 <ul style="list-style-type: none"> ● 本山町特産品ブランド化推進協議会、(一財)本山町農業公社：本山町特産品ブランド化推進協議会役員による新規栽培者への栽培技術指導 農作業受託による作業労力の軽減 ● 県（農業改良普及所等）：本山町特産品ブランド化推進協議会役員、公社と連携した生産者募集、栽培技術習得支援、集落営農組織等との連携支援 				
◆スマート農業の推進による栽培管理技術の向上及び省力化	品質管理向上及び作業労力軽減技術の検討、普及 <ul style="list-style-type: none"> ● 本山町特産品ブランド化推進協議会、(一財)本山町農業公社、本山町：水田センサーを活用した品質管理向上及び水管理軽減技術、通信費コスト削減等の検討 省力機器の検討及び普及（育苗、田植え、防除等） 機器普及のための各種事業等の活用 ● 県（農業改良普及所等）：企業、関係機関との連携による新技術、各種情報の提供、省力機器等の実証及び導入支援 				
◆おにぎり製造販売事業等による収益拡大	おにぎり屋開業の検討		おにぎり屋の営業		
	開業準備				
	<ul style="list-style-type: none"> ● (一財)本山町農業公社：事業計画の策定、おにぎり具材の試作品づくり、試験販売の実施 ● 県（地域本部等）：事業計画策定に対する助言、商品開発に関する産振アドバイザー等による支援 	<ul style="list-style-type: none"> ● (一財)本山町農業公社：おにぎり事業の株式会社設立、おにぎり屋の整備 ● 県（地域本部等）：各種支援制度に関する情報提供 	<ul style="list-style-type: none"> ● (一財)本山町農業公社：PR活動の実施、商品改良 ● 県（地域本部等）：PRやブランディング戦略に関する産振アドバイザー等による支援、各種支援制度に関する情報提供 		

嶺北地域アクションプラン		分野	農業
AP名 (実施地域)	No.2 ブランド米「土佐天空の郷」の販売促進 (本山町)		
実施主体	◎本山町特産品ブランド化推進協議会、(一財)本山町農業公社、本山町		
APへの位置づけ	H21.4月		
事業概要	農家の高齢化によって、(一財)本山町農業公社が管理する農地面積は増加している。公社では農地を守るため、米の販売価格の向上を目指し、ブランド米「土佐天空の郷」の生産安定と販路拡大、ブランド力の向上や省力化を目的としたスマート農業に取り組む。		

指標	出発点	実績		目標
		R2	R3	R5
「土佐天空の郷」、「天空の棚田米」合計販売額	0.6億円 (R元)	0.5億円		1億円

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆ブランド米の生産維持、販売促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業公社が全量買い取りする仕組みの構築(H21) ・ブランド化に向けた栽培技術の向上 ・ブランド米の生産増、販売拡大 ・販売促進に向けた取り組み(H22～) ・コンクールへの出品(H21～) ・消費者との交流(田んぼアート等)による産地のファンづくり ・耕作放棄地の解消を目指した農地借り入れ、農作業受託の拡大、受託料金等の見直し ・定期的な研修会の開催、生産誘導による人材の育成確保 ・色彩選別機、食味計等の導入(H21～23) <p>◆スマート農業の推進による栽培管理技術の向上及び省力化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水田センサー等を活用した水稲栽培管理の省力化と品質向上の検討(H29、水田センサー100台導入) ・水田センサー、ほ場管理アプリケーションの導入(H29) ・ドローンによる葉色測定・生育診断検討 ・ドローンによる防除作業実施(R3) <p>◆おにぎり製造販売事業等による収益拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本山町みらい創造協議会策定委員会によるおにぎり事業展開に向けた検討(R元～) ・本山さくら市内に、土佐天空の郷100%使用したおむすび屋「おむすび処こめのみみ」を開店(R2～) 	<p><主な成果></p> <p>◆ブランド米の地位を確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「お米日本一コンテスト in しずおか」で受賞(H22:最優秀賞、H27:金賞、H28:実行委員会会長賞(特別最高金賞)) ・(一財)日本穀物検定協会の食味ランキングで高知県北地区「にこまる」が特A評価(H29、30、R元、R2) ・米専門店を中心に取引先が全国100店舗以上に拡大 <p>◆生産者価格(玄米一等米)の向上</p> <p>10,000円/30kg(～H28) → 10,250円/30kg(H29～)</p> <p>◆スマート農業の推進</p> <p>水位センサーによる、水の見回り負担の軽減 「ヒノヒカリ」、「にこまる」の収穫適期指標の作成</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産者の確保や需要に対する生産量不足への対応 ・栽培基準の見直し ・スマート農業の推進による栽培管理技術の向上及び省力化 ・農業公社の収益拡大

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆ブランド米の生産維持、販売促進	「土佐天空の郷」栽培基準の見直し			見直された「土佐天空の郷」栽培基準の実施	
	<ul style="list-style-type: none"> ● 本山町特産品ブランド化推進協議会、(一財)本山町農業公社： 栽培基準の見直しに関する会議の開催 ● 県（農業改良普及所等）： 栽培基準見直しに向けた実証支援 			<ul style="list-style-type: none"> ● 本山町特産品ブランド化推進協議会、(一財)本山町農業公社： 安定生産支援、販売促進活動 ● 県（農業改良普及所等）： 個別巡回、現地検討会、個人面談による栽培管理指導 	
	生産者の確保				
	<ul style="list-style-type: none"> ● 本山町特産品ブランド化推進協議会、(一財)本山町農業公社： 本山町特産品ブランド化推進協議会役員による新規栽培者への栽培技術指導 農作業受託による作業労力の軽減 ● 県（農業改良普及所等）： 本山町特産品ブランド化推進協議会役員、公社と連携した生産者募集、栽培技術習得支援、集落営農組織等との連携支援 				
◆スマート農業の推進による栽培管理技術の向上及び省力化	品質管理向上及び作業労力軽減技術の検討、普及				
	<ul style="list-style-type: none"> ● 本山町特産品ブランド化推進協議会、(一財)本山町農業公社、本山町： 水田センサーを活用した品質管理向上及び水管理軽減技術、通信費コスト削減等の検討 省力機器の検討及び普及（育苗、田植え、防除等） 機器普及のための各種事業等の活用 ● 県（農業改良普及所等）： 企業、関係機関との連携による新技術、各種情報の提供、省力機器等の実証及び導入支援 				
◆おにぎり製造販売事業等による収益拡大	おにぎり屋 開業の検討				
	おにぎり屋の営業				
	<ul style="list-style-type: none"> ● (一財)本山町農業公社： 事業計画の策定、おにぎり具材の試作品づくり、試販売の実施、<u>おにぎり屋の整備</u> ● 県（地域本部等）： 事業計画策定に対する助言、商品開発に関する産振アドバイザー等による支援 		<ul style="list-style-type: none"> ● (一財)本山町農業公社： PR活動の実施、商品改良 ● 県（地域本部等）： PRやブランディング戦略に関する産振アドバイザー等による支援、各種支援制度に関する情報は提供 		

AP名 (実施地域)	No.5 銀不老による地域活性化の取り組み (大豊町)
実施主体	◎大豊町銀不老生産組合、(株)城西館、大豊町
APへの位置づけ	R2.4月
事業概要	大豊町で代々受け継がれ、生産されてきた希少価値の高い豆である「銀不老」の生産拡大及び品質確保に取り組む。また、「銀不老」を活用した加工品開発の検討も進め、地域活性化を図る。

指標	出発点	実績		目標
		R元	R2	R5
出荷量	0.59t (R元)	同左		1.2t

これまでの主な動き

<p><これまでの取り組みの内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆生産者及び生産量強化に向けた取り組み <ul style="list-style-type: none"> ・大豊町による銀不老種子の配付 (R元) ・大豊町広報紙及び町内回覧による生産者募集 (R元～) ・大豊町銀不老生産組合の設立 (R2) ◆出荷体制の仕組み作り <ul style="list-style-type: none"> ・生産者及び関係機関で構成する「銀不老の今後を考える会」の開催 (H30～) ◆ブランド化に向けた取り組み <ul style="list-style-type: none"> ・(株)城西館による加工品開発及び販売 (H19～) ・「銀不老」商標の登録 (H22) ・銀不老栽培勉強会の開催 (R元) <p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆大豊町による銀不老種子の配付件数 R元:29名+1法人→R2:39名 ◆加工品開発件数 (株)城西館 13件 (H19～) ◆銀不老交流イベントの開催 (播種・収穫 各1回) 	<p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・需要に対する生産量の確保 ・高齢化に伴う生産者及び生産量の減少 ・生産者の作業負担の軽減 ・出荷体制の強化 ・さらなるブランド化と品質の確保
--	--

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆生産者及び生産量強化に向けた取り組み	<p>銀不老の生産強化に向けた活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ●大豊町銀不老生産組合、大豊町： 広報等による農家への生産・出荷の呼びかけ、種子の配付、耕作放棄地活用の推進、鳥獣被害対策に資する資材導入、省力化につながる機材導入 ●県（地域本部、農業改良普及所等）： 各種補助事業等による支援、関係機関との橋渡し、生産量強化への技術支援 				
◆出荷体制の仕組み作り	<p>実施主体の体制確立 → 生産体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ●大豊町銀不老生産組合、大豊町： 事業主体の体制作り、事業計画作成 ●県（地域本部等）： 関係者間及び事業者との橋渡し ●大豊町銀不老生産組合、大豊町： 生産農家の確保、定期的な情報共有会の実施 ●県（地域本部等）： 体制全般へのアドバイスを得るための産業振興アドバイザーによる支援 				
◆ブランド化に向けた取り組み	<p>品質の確保及び統一化 → 付加価値向上に資する取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ●大豊町銀不老生産組合、大豊町： 熟練生産者による栽培技術指導、栽培技術マニュアルの作成、勉強会や情報共有会の開催 ●県（地域本部等）： 関係機関との橋渡し ●大豊町銀不老生産組合、大豊町： 種子の保存や機能性に係る調査・研究 ●県（地域本部等）： 関係機関との橋渡し 				
	<p>銀不老の普及活動 → 加工品等の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ●大豊町銀不老生産組合、大豊町： リーフレット作成、他事業者と連携したPR ●県（地域本部等）： 情報提供、PR活動等実施支援 ●大豊町銀不老生産組合、大豊町： 加工事業実施に向けた検討 ●県（地域本部等）： 加工品開発に当たっての産業振興アドバイザーの活用 				
<p>【用語】・銀不老：これまで大豊町の旧西豊永地区を中心に栽培されてきた、独特の黒い外観を持つ豆。名前の由来である「不老」は、この豆に含まれている多くの機能性成分により、人間の生体に活力を与え、若さを保つことにちなむと考えられており、「不老長寿の豆」として地域に親しまれてきた。</p>					

AP名 (実施地域)	No.4 銀不老による地域活性化の取り組み (大豊町)
実施主体	◎大豊町銀不老生産組合、(株)城西館、大豊町
APへの 位置づけ	R2.4月
事業概要	大豊町で代々受け継がれ、生産されてきた希少価値の高い豆である「銀不老」の生産拡大及び品質確保に取り組む。また、「銀不老」を活用した加工品開発の検討も進め、地域活性化を図る。

指標	出発点	実績		目標
		R2	R3	R5
出荷量	0.59t (R元)	0.13t		1.2t

これまでの主な動き

<p><これまでの取り組みの内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆生産者及び生産量強化に向けた取り組み <ul style="list-style-type: none"> ・大豊町による銀不老種子の配付 (R元) ・大豊町広報紙及び町内回覧による生産者募集 (R元～) ・大豊町銀不老生産組合の設立 (R2) ◆出荷体制の仕組み作り <ul style="list-style-type: none"> ・生産者及び関係機関で構成する「銀不老の今後を考える会」の開催 (H30～) ◆ブランド化に向けた取り組み <ul style="list-style-type: none"> ・(株)城西館による加工品開発及び販売 (H19～) ・「銀不老」商標の登録 (H22) ・銀不老栽培勉強会の開催 (R元) <p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆大豊町による銀不老種子の配付件数 R元:29名+1法人→R3:30名 ◆加工品開発件数 (株)城西館 13件 (H19～) ◆銀不老交流イベントの開催 (播種・収穫 各1回) 	<p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・需要に対する生産量の確保 ・高齢化に伴う生産者及び生産量の減少 ・生産者の作業負担の軽減 ・出荷体制の強化 ・さらなるブランド化と品質の確保
--	--

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆生産者及び生産量強化に向けた取り組み	銀不老の生産強化に向けた活動の充実				
	<ul style="list-style-type: none"> ●大豊町銀不老生産組合、大豊町： 広報等による農家への生産・出荷の呼びかけ、種子の配付、耕作放棄地活用の推進、鳥獣被害対策に資する資材導入、省力化につながる機材導入 ●県（地域本部、農業改良普及所等）： 各種補助事業等による支援、関係機関との橋渡し、生産量強化への技術支援 				
◆出荷体制の仕組み作り	実施主体の体制確立及び生産体制の強化				
	<ul style="list-style-type: none"> ●大豊町銀不老生産組合、大豊町： 事業主体の体制作り、事業計画作成、生産農家の確保、定期的な情報共有会の実施 ●県（地域本部等）： 関係者間及び事業者との橋渡し、体制全般へのアドバイスを取得するための産業振興アドバイザーによる支援 				
◆ブランド化に向けた取り組み	品質の確保及び統一化及び付加価値向上に資する取り組み				
	<ul style="list-style-type: none"> ●大豊町銀不老生産組合、大豊町： 熟練生産者による栽培技術指導、栽培技術マニュアルの作成、勉強会や情報共有会の開催、種子の保存や機能性に係る調査・研究 ●県（地域本部等）：関係機関との橋渡し 				
	銀不老の普及活動及び加工品等の開発				
	<ul style="list-style-type: none"> ●大豊町銀不老生産組合、大豊町： リーフレット作成、他事業者と連携したPR、加工事業実施に向けた検討 ●県（地域本部等）： 情報提供、PR活動等実施支援、加工品開発に当たっての産業振興アドバイザーの活用 				
<p>【用語】・銀不老：これまで大豊町の旧西豊永地区を中心に栽培されてきた、独特の黒い外観を持つ豆。名前の由来である「不老」は、この豆に含まれている多くの機能性成分により、人間の生体に活力を与え、若さを保つことにちなむと考えられており、「不老長寿の豆」として地域に親しまれてきた。</p>					

AP名 (実施地域)	No.6 本山町施設園芸生産拡大クラスタープロジェクト (本山町) ※地域産業クラスター関連 (本山町施設園芸生産拡大クラスタープロジェクト)
実施主体	◎エフビットファームこうち(株)、◎施設野菜農家、本山町、(一財)本山町農業公社、JA 高知県 (土長地区)
APへの位置づけ	R2.4月
事業概要	本山町内の施設野菜農家への環境制御技術等の導入や新規参入企業が実施する次世代型園芸用ハウス整備による農産物の生産拡大を核として、中山間農業複合経営拠点や農産物加工・販売事業者、地域の観光施設等が連携することで、農業クラスターを形成し、本山町における地域経済の拡大再生産の好循環を図る取り組みを進める。

指標	出発点	実績		目標
		R元	R2	R5
(1) 施設野菜出荷量	107 t (H30)	107 t		360 t
(2) 新規就農者数 (施設野菜：雇用就農含)	1人 (H28～R元)	同左		6人 (R2～5)

これまでの主な動き

<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆施設野菜の出荷量増加に向けた取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・減収要因の解明と対応策の指導 (塩類集積及び土壌病害、夏期の高温対策等) ・環境制御装置等(環境測定装置、日射比例制御かん水装置、自動天窓等)の導入啓発 ・企業への農業参入の提案及びハウス整備候補地のリストアップ ・企業の農業参入に関する地元への取り組み説明と合意形成 ・先進地視察の実施 <p>◆産地力強化のための担い手の確保・育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導農業士の育成・支援 ・産地提案書を活用した担い手の確保 <p>◆二次・三次産業との連携の具体化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県、本山町による連携のあり方の検討 (R元～) ・嶺北高校、本山町農業公社による「パプリカみそ」の共同開発(R元～) 	<p><主な成果></p> <p>◆参入企業の決定 (R元)</p> <p>県、本山町、エフビットコミュニケーションズ(株)の参入に関する協定締結</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設野菜生産者の生産安定・拡大 ・企業参入による次世代型ハウス (パプリカ) の安定生産 ・地域の担い手の確保 ・クラスター形成による関係二次・三次産業への経済効果の拡大
---	---

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆施設野菜の出荷量増加に向けた取り組み	施設野菜生産者の生産安定・拡大支援				
	<ul style="list-style-type: none"> ●施設野菜農家、エビットファームこうち(株)： 環境制御技術・省力化機器（自動天窓、自動かん水）の導入等 環境や状況に対応した塩類集積、土壌病害、高温障害対策等の実践 ●JA 高知県（土長地区）： 栽培・経営技術指導、れいほく八菜ブランドの販売強化 ●県（農業改良普及所）： JA 営農指導員と連携した栽培・経営技術指導、新技術情報等の提供及び導入支援 				
	次世代型園芸用ハウス 整備・栽培準備		次世代型園芸用ハウスでの安定生産		
	<ul style="list-style-type: none"> ●エビットファームこうち(株)： 次世代型園芸用ハウス整備、雇用の確保 ●JA 高知県（土長地区）： 販売情報等の提供 ●県（農業改良普及所等）： 事業導入支援、高度化技術の情報提供 		<ul style="list-style-type: none"> ●エビットファームこうち(株)： 雇用の確保、パプリカの安定生産 ●JA 高知県（土長地区）： れいほく八菜と連携した販売及び販売情報の提供 ●県（農業改良普及所等）： 高度化技術の情報提供、アドバイザー活用支援等 		
◆産地力強化のための担い手の確保・育成	産地力強化のための担い手の確保・育成				
	<ul style="list-style-type: none"> ●施設野菜農家、エビットファームこうち(株)等： 研修生・インターンシップ等の受入れ体制の整備 ●JA 高知県（土長地区）： 空きハウス情報等の集約・共有、栽培・経営技術指導 ●県（農業改良普及所）： 産地提案型等の情報発信による担い手の確保、出前授業、農業体験交流の支援、指導農業士の育成・支援等 				
◆二次・三次産業との連携の具体化	具体化の検討		事業者間連携の推進		
	<ul style="list-style-type: none"> ●本山町： 実施主体、クラスター構成員等による具体的連携に向けた協議実施 ●県（農業改良普及所等）： 情報提供、協議支援の実施 		<ul style="list-style-type: none"> ●本山町： 実施主体、クラスター構成員等の連携・情報共有のための会議の定期開催 ●県（農業改良普及所等）： 会議開催支援、各種制度等の情報提供 		

AP名 (実施地域)	No.5 本山町施設園芸生産拡大クラスタープロジェクト (本山町) ※地域産業クラスター関連 (本山町施設園芸生産拡大クラスタープロジェクト)
実施主体	◎エビットファームこうち(株)、◎施設野菜農家、本山町、(一財)本山町農業公社、JA 高知県(土長地区)
APへの位置づけ	R2.4月
事業概要	本山町内の施設野菜農家への環境制御技術等の導入や新規参入企業が実施する次世代型園芸用ハウス整備による農産物の生産拡大を核として、中山間農業複合経営拠点や農産物加工・販売事業者、地域の観光施設等が連携することで、農業クラスターを形成し、本山町における地域経済の拡大再生産の好循環を図る取り組みを進める。

指標	出発点	実績		目標
		R2	R3	R5
(1) 施設野菜出荷量	107 t (H30)	105 t		360 t
(2) 新規就農者数 (施設野菜：雇用就農含)	1人 (H28～R元)	3人		6人 (R2～5)

これまでの主な動き

<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆施設野菜の出荷量増加に向けた取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・減収要因の解明と対応策の指導 (塩類集積及び土壌病害、夏期の高温対策、防除の省力化、整枝技術等) ・環境制御装置等(環境測定装置、日射比例制御かん水装置、自動天窓等)の導入啓発 ・企業への農業参入の提案及びハウス整備候補地のリストアップ ・企業の農業参入に関する地元への取り組み説明と合意形成 ・先進地視察の実施 ・関係機関と連携した参入企業支援(R3～) <p>◆産地力強化のための担い手の確保・育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導農業士の育成・支援 ・産地提案書を活用した担い手の確保 <p>◆二次・三次産業との連携の具体化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県、本山町による連携のあり方の検討 (R元～) ・嶺北高校、本山町農業公社による「パプリカみそ」の共同開発 (R2) 	<p><主な成果></p> <p>◆参入企業の決定 (R元)</p> <p>県、本山町、エビットコミュニケーションズ(株)の参入に関する協定締結</p> <p>参入企業による雇用の開始 (R2～)</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設野菜生産者の生産安定・拡大 ・企業参入による次世代型ハウス (パプリカ) の安定生産 ・地域の担い手の確保 ・クラスター形成による関係二次・三次産業への経済効果の拡大
--	--

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆施設野菜の出荷量増加に向けた取り組み	施設野菜生産者の生産安定・拡大支援				
	<ul style="list-style-type: none"> ●施設野菜農家、エビットファームこうち(株)： 環境制御技術・省力化機器（自動天窓、自動かん水）の導入等 環境や状況に対応した塩類集積、土壌病害、高温障害対策等の実践 ●JA 高知県（土長地区）： 栽培・経営技術指導、れいほく八菜ブランドの販売強化 ●県（農業改良普及所）： JA 営農指導員と連携した栽培・経営技術指導、新技術情報等の提供及び導入支援 				
	次世代型園芸用ハウス 整備・栽培準備		次世代型園芸用ハウスでの安定生産		
	<ul style="list-style-type: none"> ●エビットファームこうち(株)： 次世代型園芸用ハウス整備、雇用の確保 ●JA 高知県（土長地区）： 販売情報等の提供 ●県（農業改良普及所等）： 事業導入支援、高度化技術の情報提供 		<ul style="list-style-type: none"> ●エビットファームこうち(株)： 雇用の確保、パプリカの安定生産 ●JA 高知県（土長地区）： れいほく八菜と連携した販売及び販売情報の提供 ●県（農業改良普及所等）： 高度化技術の情報提供、アドバイザー活用支援等 		
◆産地力強化のための担い手の確保・育成	産地力強化のための担い手の確保・育成				
	<ul style="list-style-type: none"> ●施設野菜農家、エビットファームこうち(株)等： 研修生・インターンシップ等の受入れ体制の整備 ●JA 高知県（土長地区）： 空きハウス情報等の集約・共有、栽培・経営技術指導 ●県（農業改良普及所）： 産地提案型等の情報発信による担い手の確保、出前授業、農業体験交流の支援、指導農業士の育成・支援等 				
◆二次・三次産業との連携の具体化	具体化の検討		事業者間連携の推進		
	<ul style="list-style-type: none"> ●本山町： 実施主体、クラスター構成員等による具体的連携に向けた協議実施 ●県（農業改良普及所等）： 情報提供、協議支援の実施 		<ul style="list-style-type: none"> ●本山町： 実施主体、クラスター構成員等の連携・情報共有のための会議の定期開催 ●県（農業改良普及所等）： 会議開催支援、各種制度等の情報提供 		

AP名 (実施地域)	No.7 (株)大豊ゆとりファームを核とした地域産業を持続化させる取り組み (大豊町)
実施主体	◎(株)大豊ゆとりファーム、大豊町
APへの 位置づけ	H21.4月
事業概要	中山間地域で安心して住み続けることができる地域を実現するため、大豊町内の農地保全及び担い手の確保・育成に取り組むとともに、環境に配慮した農産物の生産及び販売により、持続可能な産業振興を図る。

指標	出発点	実績		目標
		R元	R2	R5
クールベジタブルの販売額	913万円 (H28～30平均)	595万円		1,400万円

これまでの主な動き

<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆農地保全に向けたビジネスの展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊休農地を活用した農作業等の受託ビジネスの展開 (H21～) ・野菜等の地産地消・地産外商ビジネスの展開 (H21～) ・農地借り入れや作業受託による農地保全の推進 (H21～) ・農作業に係る各種機器類の導入 (H21～22) →H21、H22 産振補助金の活用 ・産業振興アドバイザーを導入した(株)大豊ゆとりファームの中期事業計画の作成 (H23) ・クールベジタブルの県内大手取引先開拓に伴う生産強化 (H24～) ・中山間地域等直接支払制度 (第4期) を活用した取り組み (H27～) ・中山間農業複合経営拠点としての取り組み (H28:位置付け、H29:事業戦略策定 H30～:事業戦略に基づいた取り組み) <p>◆新規就農者の確保・育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新農業人フェアへの参加等による新規就農研修生の募集活動 (H21～) 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修生受入体制の充実 (山村農業実践センターの整備) (H27) ・農業インターンシップ生の受入 (H28～29) <p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆研修生 (地域おこし協力隊) の受入 H28～R2: 5名 ◆作業効率向上に向けたクールベジタブルの品目数集約化 H27:33品目 → R2:4品目 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・農家の高齢化に伴う農作業受託面積 (条件不利地) の増加 ・クールベジタブルの生産と販路の拡大及び優良品目へのさらなる集約化 ・自立に向けた経営の効率化 ・新規就農者の育成及び確保
---	---

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆農地保全に向けたビジネスの展開	農作業受託、農産物販売事業の強化				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)大豊ゆとりファーム： 水稻育苗事業の推進、農地借り入れや農作業受託の拡大、直販所向け農産物の庭先集出荷活動、地域特産物（ぜんまい、碁石茶等）の製造受託 ●県（地域本部等）： 関係機関による技術指導 				
	クールベジタブルの生産と販路の拡大				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)大豊ゆとりファーム：優良品目へのさらなる集約化、栽培技術ノウハウの習得、作業省力化に係る設備の導入、新たな販売先の掘り起こし ●県（地域本部等）：関係機関による栽培技術指導、作業員確保に向けた支援、補助事業による設備投資の支援 				
	自立に向けた体制見直し		経営改善の取り組み		
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)大豊ゆとりファーム： 部門別収支計画の作成、組織体制の見直し等 ●県（地域本部等）： 中山間農業複合経営拠点事業戦略の実行フォロー 		<ul style="list-style-type: none"> ●(株)大豊ゆとりファーム： 収支計画や体制見直し結果に基づく事業実施 ●県（地域本部等）： 各種支援制度に関する情報提供 		
◆新規就農者の確保・育成	募集活動及び受入体制の強化				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)大豊ゆとりファーム、大豊町：地域おこし協力隊や研修生の募集、大豊町山村農業実践センターにおける研修、研修後の就農・営農支援の充実 ●県（地域本部等）：高知県移住促進・人材確保センターと連携した支援、移住者フェアの案内、就農に向けた助成事業の活用支援 				
<p>【用語】・中山間農業複合経営拠点：地域農業の核となる市町村農業公社等の経営体が、高収益の施設園芸や中山間地域に適した農産物の生産、6次産業などの稼ぐ取り組みと新規就農者の研修事業や庭先集荷、農作業受託などの支える取り組みを複合経営し、中山間地域の農業の競争力を高め、支える仕組み</p>					

AP名 (実施地域)	No.6 (株)大豊ゆとりファームを核とした地域産業を持続化させる取り組み (大豊町)
実施主体	◎(株)大豊ゆとりファーム、大豊町
APへの 位置づけ	H21.4月
事業概要	中山間地域で安心して住み続けることができる地域を実現するため、大豊町内の農地保全及び担い手の確保・育成に取り組むとともに、環境に配慮した農産物の生産及び販売により、持続可能な産業振興を図る。

指標	出発点	実績		目標
		R2	R3	R5
クールベジタブルの販売額	913万円 (H28～30平均)	1,050万円		1,400万円

これまでの主な動き

<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆農地保全に向けたビジネスの展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊休農地を活用した農作業等の受託ビジネスの展開 (H21～) ・野菜等の地産地消・地産外商ビジネスの展開 (H21～) ・農地借り入れや作業受託による農地保全の推進 (H21～) ・農作業に係る各種機器類の導入 (H21～22) →H21、H22 産振補助金の活用 ・産業振興アドバイザーを導入した(株)大豊ゆとりファームの中期事業計画の作成 (H23) ・クールベジタブルの県内大手取引先開拓に伴う生産強化 (H24～) ・中山間地域等直接支払制度 (第4期) を活用した取り組み (H27～) ・中山間農業複合経営拠点としての取り組み (H28:位置付け、H29:事業戦略策定 H30～:事業戦略に基づいた取り組み) <p>◆新規就農者の確保・育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新農業人フェアへの参加等による新規就農研修生の募集活動 (H21～) 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修生受入体制の充実 (山村農業実践センターの整備) (H27) ・農業インターンシップ生の受入 (H28～29) <p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆研修生 (地域おこし協力隊) の受入 H28～R3:6名 ◆作業効率向上に向けたクールベジタブルの品目数集約化 H27:33品目 → R3:4品目 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・農家の高齢化に伴う農作業受託面積 (条件不利地) の増加 ・クールベジタブルの生産と販路の拡大 ・自立に向けた経営の効率化 ・新規就農者の育成及び確保
---	---

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆農地保全に向けたビジネスの展開	農作業受託、農産物販売事業の強化				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)大豊ゆとりファーム： 水稲育苗事業の推進、農地借り入れや農作業受託の拡大、直販所向け農産物の庭先集出荷活動、地域特産物（ぜんまい、碁石茶等）の製造受託 ●県（地域本部等）： 関係機関による技術指導 				
	クールベジタブルの生産の拡大				
◆新規就農者の確保・育成	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)大豊ゆとりファーム：栽培技術ノウハウの習得、作業省力化に係る設備の導入、新たな販売先の掘り起こし ●県（地域本部等）：関係機関による栽培技術指導、作業員確保に向けた支援、補助事業による設備投資の支援 				
	自立に向けた体制見直し及び収益力の強化				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)大豊ゆとりファーム： <u>収支計画や組織体制の見直し等による組織マネジメント力の強化</u> ●県（地域本部等）： 中山間農業複合経営拠点事業戦略の実行フォロー等、各種支援制度に関する情報提供 				
<ul style="list-style-type: none"> ●(株)大豊ゆとりファーム、大豊町：地域おこし協力隊や研修生の募集、大豊町山村農業実践センターにおける研修、研修後の就農・営農支援の充実 ●県（地域本部等）：高知県移住促進・人材確保センターと連携した支援、移住者フェアの案内、就農に向けた助成事業の活用支援 					
<p>【用語】・中山間農業複合経営拠点：地域農業の核となる市町村農業公社等の経営体が、高収益の施設園芸や中山間地域に適した農産物の生産、6次産業などの稼ぐ取り組みと新規就農者の研修事業や庭先集荷、農作業受託などの支える取り組みを複合経営し、中山間地域の農業の競争力を高め、支える仕組み</p>					

嶺北地域アクションプラン		分野	農業
AP名 (実施地域)	No.8 土佐あかうしの競争力の確保による肉用牛産業の再興 (土佐町、本山町、大豊町) ※地域産業クラスター関連 (嶺北畜産クラスタープロジェクト)		
実施主体	◎(株)れいほく未来、◎肉用牛生産組合、JA 高知県(土長地区)、本山町、土佐町、大豊町		
APへの位置づけ	H21.4月		
事業概要	土佐あかうしの産地を守り、地域の畜産振興を図るため、意欲ある生産者の規模拡大を推進するとともに、土佐あかうし生産基地について、繁殖・肥育一貫経営を軌道に乗せ、安定的な出荷体制を構築する。また、生産と食肉加工から販売に至る畜産の6次産業化に向けた取り組みを進める。		

指標	出発点	実績		目標
		R元	R2	R5
土佐あかうしの販売額	3.2億円 (H30)	2.9億円		3.5億円

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆生産力の向上と6次産業化に向けた取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期巡回(繁殖検診、飼養管理指導等) ・土佐あかうし増頭対策事業 ET技術を活用した素牛生産 CSを活用したET産子の育成 ・増殖基金の設立(土佐町、本山町)(R元) ・レンタル畜舎整備事業の実施 ・県の補助制度を活用した繁殖雌牛の自家保留及び導入(H28~) ・食肉センター整備に向けた検討(H28~) <p>◆堆肥の利用促進及び県内産粗飼料の積極的な利用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・耕種農家との耕畜連携による粗飼料の生産 ・JA堆肥舎の整備(H29) →H28産業振興推進総合支援事業費補助金の活用(事業費:5,066万円) 	<p><主な成果></p> <p>◆飼養頭数</p> <p>809頭 うち 繁殖牛 465頭(H28.2月) → 1,163頭 うち 繁殖牛 549頭(H31.2月) → 1,170頭 うち 繁殖牛 535頭(R2.2月) うち、(株)れいほく未来の飼育頭数 125頭(H28.2月) → 321頭(H31.2月) → 346頭(R2.2月)</p> <p>◆臨時市場でのET産子の販売 H29:36頭 → H30:73頭 → R元:76頭 → R2:39頭(11月現在)</p> <p>◆増殖基金設立(R元) 本山町:450万円(90万円×5頭)</p> <p>◆増殖基金(R2) 本山町:600万円(60万円×10頭) 大川村:600万円(60万円×10頭)</p> <p>◆レンタル畜舎整備事業 のべ2戸(H28~R元)</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・農家戸数及び繁殖雌牛が減少する中での繁殖牛の確保・増頭 ・あかうし生産基地整備後の運営 ・堆肥の利用促進

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆生産力の向上と6次産業化に向けた取り組み	農家の経営規模拡充				
	<ul style="list-style-type: none"> ●肉用牛生産組合、(株)れいほく未来： レンタル畜舎施設等整備事業の活用、繁殖雌牛保留・導入に係る支援の活用、増殖基金の活用 ●土佐町、本山町、大豊町： 各種事業（導入事業、増殖基金等）による経営支援 ●県（家畜保健衛生所等）： 各種事業（レンタル畜舎施設等整備事業、導入事業、増殖基金等）による経営支援 				
	飼養技術の向上と安定的な出荷体制の確立				
◆堆肥の利用促進及び県内産粗飼料の積極的な利用	飼養技術の向上と安定的な出荷体制の確立				
	<ul style="list-style-type: none"> ●肉用牛生産組合、(株)れいほく未来： 増頭及び飼養技術向上による安定的な出荷体制の構築 ●県（家畜保健衛生所等）： 巡回指導等による技術支援、ETによる肥育素牛の生産 				
	6次産業化の推進				
◆堆肥の利用促進及び県内産粗飼料の積極的な利用	<ul style="list-style-type: none"> ●県（畜産振興課等）： 食肉センターの整備、担い手の確保・育成、食肉の販路開拓 				
	施設の検討	施設の整備	堆肥処理施設の整備と県内産粗飼料の利用推進		
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)れいほく未来： 堆肥処理施設の検討 ●県(家畜保健衛生所等)： 情報提供等 	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)れいほく未来： 堆肥処理施設の整備 ●県(家畜保健衛生所等)： 補助金等による施設整備支援 	<ul style="list-style-type: none"> ●肉用牛生産組合、(株)れいほく未来： 堆肥の積極的な利用、自給飼料の増産ならびに県内産粗飼料の確保 ●県(家畜保健衛生所等)： 稲 WCS 等の活用に関する情報提供、技術支援 		
<p>【用語】・ET（Embryo Transfer）：受精卵移植あるいは胚移植の意。体内、体外で授精させた卵子を別個体に移植し産子を得る技術。乳用牛を活用し肉用牛の生産が可能となる。</p> <p>・CS（Cattle Station）：繁殖経営で生産された子牛のほ育・育成を集約的に行う組織、施設</p> <p>・WCS（Whole Crop Silage）：トウモロコシや稲のように、従来は子実を採ることを目的に作られた作物について、繊維の多い茎葉部分と栄養価の高い子実部分を一緒に収穫し、サイラージ（家畜用飼料の一種）に調整したもの。</p>					

AP名 (実施地域)	No.7 土佐あかうしの競争力の確保による肉用牛産業の再興 (土佐町、本山町、大豊町) ※地域産業クラスター関連 (嶺北畜産クラスタープロジェクト)
実施主体	◎(株)れいほく未来、◎肉用牛生産組合、JA 高知県(土長地区)、本山町、土佐町、大豊町
APへの 位置づけ	H21.4月
事業概要	土佐あかうしの産地を守り、地域の畜産振興を図るため、意欲ある生産者の規模拡大を推進するとともに、土佐あかうし生産基地について、繁殖・肥育一貫経営を軌道に乗せ、安定的な出荷体制を構築する。また、生産と食肉加工から販売に至る畜産の6次産業化に向けた取り組みを進める。

指標	出発点	実績		目標
		R2	R3	R5
土佐あかうしの販売額	3.2 億円 (H30)	3.5 億円		3.5 億円

これまでの主な動き

<これまでの取り組みの内容>	<主な成果>
<p>◆生産力の向上と6次産業化に向けた取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期巡回(繁殖検診、飼養管理指導等) ・土佐あかうし増頭対策事業 ET技術を活用した素牛生産 CSを活用したET産子の育成 ・増殖基金の設立(土佐町、本山町)(R元) ・レンタル畜舎整備事業の実施 ・県の補助制度を活用した繁殖雌牛の自家保留及び導入(H28~) ・食肉センター整備に向けた検討(H28~) ・新型コロナウイルス感染症対策産業振興推進特別支援事業費補助金を活用した送風機等の整備(R3) <p>◆堆肥の利用促進及び県内産粗飼料の積極的な利用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・耕種農家との耕畜連携による粗飼料の生産 ・JA堆肥舎の整備(H29) →H28産業振興推進総合支援事業費補助金の活用(事業費:5,066万円) 	<p>◆飼養頭数</p> <p>809頭 うち 繁殖牛 465頭(H28.2月) → 1,163頭 うち 繁殖牛 549頭(H31.2月) → 1,170頭 うち 繁殖牛 535頭(R2.2月) → 1,223頭 うち 繁殖牛 523頭(R3.2月) うち、(株)れいほく未来の飼育頭数 125頭(H28.2月) → 321頭(H31.2月) → 346頭(R2.2月) → 347頭(R3.2月)</p> <p>◆臨時市場でのET産子の販売 H29: 36頭 → H30: 73頭 → R元: 76頭 → R2: 39頭 → R3: 15頭(1月現在)</p> <p>◆増殖基金(令和3年度積み増し) 土佐町: 2,500万円 本山町: 600万円</p> <p>◆レンタル畜舎整備事業 のべ2戸(H28~R元)</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・農家戸数及び繁殖雌牛が減少する中での繁殖牛の確保・増頭 ・増頭を促進するために繁殖預託管理施設の増設が必要 ・あかうし生産基地での肥育成績の改善 ・堆肥の利用促進

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆生産力の向上と6次産業化に向けた取り組み	農家の経営規模拡充				
	<ul style="list-style-type: none"> ●肉用牛生産組合、(株)れいほく未来： レンタル畜舎施設等整備事業の活用、繁殖雌牛保留・導入に係る支援の活用、増殖基金の活用 ●土佐町、本山町、大豊町： 各種事業（導入事業、増殖基金等）による経営支援 ●県（家畜保健衛生所等）： 各種事業（レンタル畜舎施設等整備事業、導入事業、増殖基金等）による経営支援 				
	飼養技術の向上と安定的な出荷体制の確立				
◆堆肥の利用促進及び県内産粗飼料の積極的な利用	<ul style="list-style-type: none"> ●肉用牛生産組合、(株)れいほく未来： 増頭及び飼養技術向上による安定的な出荷体制の構築 ●県（家畜保健衛生所等）： 巡回指導等による技術支援、ETによる肥育素牛の生産 				
	6次産業化の推進				
	<ul style="list-style-type: none"> ●県（畜産振興課等）： 食肉センターの整備、担い手の確保・育成、食肉の販路開拓 				
◆堆肥の利用促進及び県内産粗飼料の積極的な利用	施設の検討	施設の整備	県内産粗飼料の利用推進		
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)れいほく未来： 堆肥処理施設の検討 ●県(家畜保健衛生所等)： 情報提供等 	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)れいほく未来： 堆肥処理施設の整備 ●県(家畜保健衛生所等)： 補助金等による施設整備支援 	<ul style="list-style-type: none"> ●肉用牛生産組合、(株)れいほく未来： 堆肥の積極的な利用、自給飼料の増産ならびに県内産粗飼料の確保 ●県(家畜保健衛生所等)： 稲 WCS 等の活用に関する情報提供、技術支援 		
	<p>【用語】・ET (Embryo Transfer)：受精卵移植あるいは胚移植の意。体内、体外で授精させた卵子を別個体に移植し産子を得る技術。乳用牛を活用し肉用牛の生産が可能となる。</p> <p>・CS (Cattle Station)：繁殖経営で生産された子牛のほ育・育成を集約的に行う組織、施設</p> <p>・WCS (Whole Crop Silage)：トウモロコシや稲のように、従来は子実を採ることを目的に作られた作物について、繊維の多い茎葉部分と栄養価の高い子実部分を一緒に収穫し、サイラージ（家畜用飼料の一種）に調整したもの。</p>				

嶺北地域アクションプラン

分野

林業

AP 名 (実施地域)	No.10 嶺北地域における林業クラスター化の取り組み (嶺北地域全域) ※地域産業クラスター関連 (嶺北林業クラスタープロジェクト)
実施主体	◎自伐林家、◎森林組合、◎素材生産事業体、森林所有者、高知おおとよ製材(株)、嶺北広域原木安定供給協議会、大豊町、本山町、土佐町、大川村
AP への 位置づけ	H21.4月
事業概要	嶺北地域の豊かな森林資源を生かし、間伐から素材生産、製材・加工を集約したクラスター化を図ることにより、林業での地域活性化を目指す。

指標	出発点	実績		目標
		R元	R2	R5
素材生産量	105,557 m ³ (H30)	106,668 m ³		130,000 m ³

これまでの主な動き

<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆安定的な木材生産・供給システムの構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木材増産推進に向けた協議 ・森の工場の推進 (H21～) ・林業の担い手の育成確保 ・嶺北広域原木安定供給協議会 (H28～) ・ストックヤードの稼働 (R2) <p>◆再造林の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・嶺北地区増産・再造林推進協議会 (R元～) <p>◆木質バイオマス発電施設等の導入の検討・整備の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未利用材利活用の推進 <p>◆製材品等の生産</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大型製材工場のフル稼働への支援 	<p><主な成果></p> <p>◆森の工場の数 H30 : 43 団地 → R2 : 46 団地 (見込)</p> <p>◆原木消費量 (大豊町、本山町) H30 : 136,845 m³ → R2 : 99,000 m³ (見込)</p> <p>◆低質材搬出に係る支援 H30 : 3,238 t → R2 : 3,600 t (見込)</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・素材生産量のさらなる確保 ・皆伐事業の増加に対する森林資源の維持 ・担い手確保と林業技術の継承
---	---

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆ 安定的な木材生産・供給システムの構築	原木生産体制の強化				
	<ul style="list-style-type: none"> ● 森林組合、素材生産事業体ほか：事業地の確保、森の工場の設定、担い手の育成確保、市場への安定供給、嶺北広域原木安定供給協議会の開催 ● 県（林業振興事務所等）：各種支援制度に関する情報提供、現場指導及び情報収集 				
◆ 再造林の推進	再造林の補助制度を活用した伐採跡地の更新				
	<ul style="list-style-type: none"> ● 森林所有者、自伐林家、森林組合ほか：伐採跡地の植林の実施 ● 県（林業振興事務所等）：各種支援制度に関する情報提供、嶺北地区増産・再造林推進協議会の開催 				
◆ 木質バイオマス発電施設等の導入の検討・整備の推進	木質バイオマス発電施設等の導入に向けた検討				
	<ul style="list-style-type: none"> ● 大豊町、大川村：施設導入に向けた調査・検討・誘致 ● 県（林業振興事務所等）：情報提供、高知県木質バイオマスエネルギー利用促進協議会の開催 				
	発電施設の整備		発電施設稼働		
	<ul style="list-style-type: none"> ● 民間事業者：発電施設の整備 ● 本山町：地元調整支援等 		<ul style="list-style-type: none"> ● 民間事業者：安定的な稼働の確保 ● 県（林業振興事務所等）、本山町：バイオマス燃料確保に係る情報提供・支援 		
◆ 製材品等の生産	大型製材工場の体制整備				
	<ul style="list-style-type: none"> ● 高知おおとよ製材(株)、大豊町：大型製材工場の健全運営、CLT パネル工場の整備検討 ● 県（林業振興事務所等）：情報提供、CLT 建築推進協議会との連携 				
<p>【用語】・CLT：集成板（CLT）は、ひき板を幅方向に並べたものを繊維方向が直交するように積層接着した製品。日本農林規格（JAS規格）平成25年12月20日制定、平成26年1月19日施行。CLTは、「Cross Laminated Timber」の略</p>					

嶺北地域アクションプラン

分野

林業

AP 名 (実施地域)	No.9 嶺北地域における林業クラスター化の取り組み (嶺北地域全域) ※地域産業クラスター関連 (嶺北林業クラスタープロジェクト)
実施主体	◎自伐林家、◎森林組合、◎素材生産事業体、森林所有者、高知おおとよ製材(株)、嶺北広域原木安定供給協議会、大豊町、本山町、土佐町、大川村
AP への 位置づけ	H21.4月
事業概要	嶺北地域の豊かな森林資源を生かし、間伐から素材生産、製材・加工を集約したクラスター化を図ることにより、林業での地域活性化を目指す。

指標	出発点	実績		目標
		R2	R3	R5
素材生産量	105,557 m ³ (H30)	111,704 m ³		130,000 m ³

これまでの主な動き

<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆安定的な木材生産・供給システムの構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木材増産推進に向けた協議 ・森の工場の推進 (H21～) ・林業の担い手の育成確保 ・嶺北広域原木安定供給協議会 (H28～) ・ストックヤードの稼働 (R2) <p>◆再造林の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・嶺北地区増産・再造林推進協議会 (R元～) <p>◆木質バイオマス発電施設等の導入の検討・整備の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未利用材利活用の推進 <p>◆製材品等の生産</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大型製材工場のフル稼働への支援 	<p><主な成果></p> <p>◆森の工場の数 H30 : 43 団地 → R3 : 46 団地 (12月末)</p> <p>◆原木消費量 (大豊町、本山町) H30 : 136,845 m³ → R3 : 84,000 m³ (12月末見込)</p> <p>◆低質材搬出に係る支援 H30 : 3,238 t → R3 : 1,200 t (12月末見込)</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・素材生産量のさらなる確保 ・皆伐事業の増加に対する森林資源の維持 ・担い手確保と林業技術の継承
---	---

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆ 安定的な木材生産・供給システムの構築	原木生産体制の強化				
	<ul style="list-style-type: none"> ● 森林組合、素材生産事業体ほか：事業地の確保、森の工場の設定、担い手の育成確保、市場への安定供給、嶺北広域原木安定供給協議会の開催 ● 県（林業振興事務所等）：各種支援制度に関する情報提供、現場指導及び情報収集 				
◆ 再造林の推進	再造林の補助制度を活用した伐採跡地の更新				
	<ul style="list-style-type: none"> ● 森林所有者、自伐林家、森林組合ほか：伐採跡地の植林の実施 ● 県（林業振興事務所等）：各種支援制度に関する情報提供、嶺北地区増産・再造林推進協議会の開催 				
◆ 木質バイオマス発電施設等の導入の検討・整備の推進	木質バイオマス発電施設等の導入に向けた検討				
	<ul style="list-style-type: none"> ● 大豊町、大川村：施設導入に向けた調査・検討・誘致 ● 県（林業振興事務所等）：情報提供、高知県木質バイオマスエネルギー利用促進協議会の開催 				
	発電施設の整備		発電施設稼働		
	<ul style="list-style-type: none"> ● 民間事業者：発電施設の整備 ● 本山町：地元調整支援等 		<ul style="list-style-type: none"> ● 民間事業者：安定的な稼働の確保 ● 県（林業振興事務所等）、本山町：バイオマス燃料確保に係る情報提供・支援 		
◆ 製材品等の生産	大型製材工場の体制整備				
	<ul style="list-style-type: none"> ● 高知おおとよ製材(株)、大豊町：大型製材工場の健全運営、CLT パネル工場の整備検討 ● 県（林業振興事務所等）：情報提供、CLT 建築推進協議会との連携 				
<p>【用語】・CLT：集成板（CLT）は、ひき板を幅方向に並べたものを繊維方向が直交するように積層接着した製品。日本農林規格（JAS規格）平成25年12月20日制定、平成26年1月19日施行。CLTは、「Cross Laminated Timber」の略</p>					

嶺北地域アクションプラン		分野	商工業
AP名 (実施地域)	No.12 嶺北地域内のシソ・ユズの活用による地域振興 (本山町)		
実施主体	◎(有)さめうらフーズ、集落活動センター汗見川、生産者		
APへの 位置づけ	R2.4月		
事業概要	町内でのシソ・ユズの生産量増加に向けた取り組みを行うとともに、加工の強化や、ジュース工場を整備することで、町内でのシソ、ユズの生産から加工までの一貫体制を確立し、地域経済への波及効果の拡大を図る。		

指標	出発点	実績		目標
		R元	R2	R5
シソ・ユズ商品の販売額	0.65 億円 (H30)	同左		1 億円

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆嶺北地域のシソ・ユズを活用したジュースの生産</p> <ul style="list-style-type: none"> ・嶺北地域産のユズを使った清涼飲料水「ゆずごち」の販売開始 (H18) ・シソを栽培する集落活動センター汗見川と連携し、シソを使った商品開発を開始 (H25) ・汗見川産のシソを使ったアイスクャンディー、アイスカップの販売開始 (H26) ・汗見川産のシソを使った清涼飲料水「しそごち」の販売開始 (H28) ・「本山おいそサワーの素」を発売開始 (R2) <p>◆県外での販路拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「しそごち」を販売開始し、「高知家のうまいもの大賞 2018 amazon 賞」を受賞 (H30) ・スーパーマーケットトレードショーなど県外の商談会への出展 ・人気が高まり、現在では主に県外大手食品卸を通じ、首都圏、関西中心に全国のスーパーで展開 ・高知県産品商談会(11月)への出展 (R2) 	<p>◆原料生産の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ユズ製品の生産販売に向けた育成、生産、加工の一貫体制の構築を開始 (H12) ・汗見川産のシソの(有)さめうらフーズへの納入を開始 (H26) <p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆地元産シソ・ユズを活用したジュース、氷菓の開発 ◆シソ原液の集荷量 (集落活動センター汗見川) H27 : 1,800 L → R2 : 8,460L <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・OEM 生産のため製造原価が高く、また柔軟な生産量調整が困難 ・需要に対する原料のシソの不足 ・実生ユズの原料確保の強化

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆嶺北地域のシソ・ユズを活用したジュースの生産	新工場の検討	新工場の整備	新工場での生産		
	<ul style="list-style-type: none"> ●(有)さめうらフーズ： 新工場の整備の検討、産業振興推進総合支援事業費補助金の活用検討 ●県（地域本部等）： 産業振興推進総合支援事業費補助金、その他、各種支援制度に関する情報提供 	<ul style="list-style-type: none"> ●(有)さめうらフーズ： 新工場の整備、HACCPの取得に向けた関係機関との協議等 ●県（地域本部等）： 産業振興推進総合支援事業費補助金による支援、その他、各種支援制度に関する情報提供 	<ul style="list-style-type: none"> ●(有)さめうらフーズ： 生産性向上に向けた生産管理手法の検討等 ●県（地域本部等）： 食品工場の生産管理に関する産振アドバイザー等による支援、その他、各種支援制度に関する情報提供 		
◆県外での販路拡大	新商品の開発	県外向け商談会への出展・営業の強化			
	<ul style="list-style-type: none"> ●(有)さめうらフーズ： 地域資源を活用した新商品の開発、商談会等への参加、プロモーション活動の実施 ●県（地域本部等）： 商品開発に関する産業振興アドバイザー等による支援、各種商談会、支援制度に関する情報提供 	<ul style="list-style-type: none"> ●(有)さめうらフーズ： 商談会等への参加、プロモーション活動の実施 ●県（地域本部等）： プロモーション戦略に関する産業振興アドバイザー等による支援、各種商談会、支援制度に関する情報提供 			
◆原料生産の強化	生産地拡大の検討	シソ生産の拡大			
	<ul style="list-style-type: none"> ●(有)さめうらフーズ： シソ生産・加工を行う集落活動センター汗見川との連携、生産地拡大に向けた各地区への周知の実施 ●集落活動センター汗見川 (有)さめうらフーズとの連携、シソの生産拡大 ●県（地域本部等）： シソ生産の拡大に興味のある町内の団体等の紹介 	<ul style="list-style-type: none"> ●(有)さめうらフーズ： シソ生産・加工を行う集落活動センター汗見川との連携 ●集落活動センター汗見川 (有)さめうらフーズとの連携、シソの生産量確保 ●県（地域本部等）： 各種支援制度に関する情報提供 			
	ユズ生産の拡大				
<ul style="list-style-type: none"> ●(有)さめうらフーズ： ユズの自社農場での苗木の育成や生産面積の拡大、ゆず生産者との連携の強化 ●県（地域本部等）： 各種支援制度に関する情報提供 					

嶺北地域アクションプラン

分野

商工業

AP名 (実施地域)	No.11 嶺北地域内のシソ・ユズの活用による地域振興 (本山町)
実施主体	◎(有)さめうらフーズ、集落活動センター汗見川、生産者
APへの 位置づけ	R2.4月
事業概要	町内でのシソ・ユズの生産量増加に向けた取り組みを行うとともに、加工の強化や、ジュース工場を整備することで、町内でのシソ、ユズの生産から加工までの一貫体制を確立し、地域経済への波及効果の拡大を図る。

指標	出発点	実績		目標
		R2	R3	R5
シソ・ユズ商品の販売額	0.65 億円 (H30)	0.60 億円		1 億円

これまでの主な動き

＜これまでの取り組みの内容＞

◆嶺北地域のシソ・ユズを活用したジュースの生産

- ・嶺北地域産のユズを使った清涼飲料水「ゆずごち」の販売開始 (H18)
- ・シソを栽培する集落活動センター汗見川と連携し、シソを使った商品開発を開始 (H25)
- ・汗見川産のシソを使ったアイスクャンディー、アイスカップの販売開始 (H26)
- ・汗見川産のシソを使った清涼飲料水「しそごち」の販売開始 (H28)
- ・「本山おいそサワーの素」を発売開始 (R2)
- ・ジュース新工場整備の着工 (R3)

◆新商品の開発

- ・「本山おいそサワーの素」を発売開始 (R2)

◆県外での販路拡大

- ・「しそごち」を販売開始し、「高知家のうまいもの大賞 2018 amazon 賞」を受賞 (H30)
- ・スーパーマーケットトレードショーなど県外の商談会への出展
- ・人気が高まり、現在では主に県外大手食品卸を通じ、首都圏、関西中心に全国のスーパーで展開
- ・高知県産品商談会(11月)への出展 (R2)

◆原料生産の強化

- ・ユズ製品の生産販売に向けた育成、生産、加工の一貫体制の構築を開始 (H12)
- ・汗見川産のシソの(有)さめうらフーズへの納入を開始 (H26)
- ・さめうらフーズと集落活動センター汗見川のシソ事業の連携が、第35回地場産業大賞地場産業賞を受賞 (R2)

＜主な成果＞

- ◆地元産シソ・ユズを活用したジュース、氷菓の開発
- ◆シソ原液の集荷量 (集落活動センター汗見川)
H27 : 1,800 L → R3 : 11,250L

＜課題＞

- ・OEM生産のため製造原価が高く、また柔軟な生産量調整が困難
- ・需要に対する原料のシソの不足
- ・実生ユズの原料確保の強化

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆嶺北地域のシソ・ユズを活用したジュースの生産	<p>新工場の検討 → 新工場の整備 → 新工場での生産</p>				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(有)さめうらフーズ：新工場の整備の検討、補助金の活用検討 ●県（地域本部等）：補助金、その他、各種支援制度に関する情報提供 	<ul style="list-style-type: none"> ●(有)さめうらフーズ：新工場の整備、HACCPの取得に向けた関係機関との協議等 ●県（地域本部等）：<u>事業再構築補助金活用への支援</u>、その他、各種支援制度に関する情報提供 		<ul style="list-style-type: none"> ●(有)さめうらフーズ：生産性向上に向けた生産管理手法の検討等 ●県（地域本部等）：食品工場の生産管理に関する産振アドバイザー等による支援、その他、各種支援制度に関する情報提供 	
◆新商品の開発	<p>新商品の開発</p>				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(有)さめうらフーズ：地域資源を活用した新商品の開発、商談会等への参加、プロモーション活動の実施 ●県（地域本部等）：商品開発に関する産振アドバイザー等による支援、各種商談会、支援制度に関する情報提供 				
◆県外での販路拡大	<p>県外向け商談会への出展・営業の強化</p>				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(有)さめうらフーズ：商談会等への参加、プロモーション活動の実施 ●県（地域本部等）：プロモーション戦略に関する産業振興アドバイザー等による支援、各種商談会、支援制度に関する情報提供 				
◆原料生産の強化	<p>生産地拡大の検討 → シソ生産の拡大</p>				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(有)さめうらフーズ：シソ生産・加工を行う集落活動センター汗見川との連携、生産地拡大に向けた各地区への周知の実施 ●集落活動センター汗見川 (有)さめうらフーズとの連携、シソの生産拡大 ●県（地域本部等）：シソ生産の拡大に興味のある町内の団体等の紹介 		<ul style="list-style-type: none"> ●(有)さめうらフーズ：シソ生産・加工を行う集落活動センター汗見川との連携 ●集落活動センター汗見川 (有)さめうらフーズとの連携、シソの生産量確保 ●県（地域本部等）：各種支援制度に関する情報提供 		
	<p>ユズ生産の拡大</p>				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(有)さめうらフーズ：ユズの自社農場での苗木の育成や生産面積の拡大、ゆず生産者との連携の強化 ●県（地域本部等）：各種支援制度に関する情報提供 				

嶺北地域アクションプラン

分野

商工業

AP名 (実施地域)	No.14 ばうむ合同会社による地域資源（木材・米）活用の取り組み (本山町) ※地域産業クラスター関連（嶺北林業クラスタープロジェクト）
実施主体	◎ばうむ合同会社、本山町
APへの 位置づけ	H21.4月
事業概要	嶺北産材やブランド米などの地域資源を活用した加工品の製造を行うとともに、新たな商品開発や販路拡大に取り組み、地域の活性化を目指す。

指標	出発点	実績		目標
		R元	R2	R5
(1) 木工品製品全般 の売上金額	2,290万円 (H30)	2,681万円		8,900万円
(2) 焼酎の販売額	442万円 (H30)	515万円		1,959万円

これまでの主な動き

<これまでの取り組みの内容>

◆木工製品の製造・販売

- ・杉柂目フリーパネルや学習机等の製造販売 (H21～)
- ・インターネットや県外への営業による販路拡大・PR活動 (H21～)
- ・レーザー加工機の導入による「もくレース」等オリジナル木製雑貨の開発と製造販売 (H22～)
- ・木工教室や親子学習机づくり体験ツアー等の実施 (H22～)
- ・「もくレース」(木製雑貨) 製造施設拡張事業(レーザー加工機の増設) (H28)
→H28 産業振興推進総合支援事業費補助金の活用(事業費 3,414万円)
- ・「親子学習机づくりワークショップ」がふるさと納税返礼品に採用 (R元～)

◆米焼酎の製造・販売

- ・「土佐天空の郷」焼酎製造販売事業(製造施設の整備) (H24)
→H24 産業振興推進総合支援事業費補助金の活用(事業費 1,317万円)
- ・県外への営業による販路拡大・PR活動 (H26～)
- ・焼酎(玄米仕込)の製造販売 (H26～)

・焼酎(白米仕込)の製造販売 (H27～)

・沖縄以外では初となる泡盛の製造販売 (H28～)

・シンガポールでの営業・商談会に参加 (H29～)

・嶺北地域で栽培された万次郎かぼちゃを使った焼酎の製造販売 (H31.4月～)

・「土佐天空の郷を食べて!飲んで!応援するキャンペーン」の対象商品に米焼酎が採用 (R2)

<主な成果>

◆酒造全体の販売本数(720ml換算)

H27: 3,881本 → R2: 1,157本(9月末時点)

◆雇用者数

H27: 9人(長期3名、短期6名)

→ R2: 6人(長期4名、短期2名)

<課題>

・売上の伸び悩み

・売上アップに向けた新たな商品の開発

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆ 木工製品の製造・販売	県内外の企業・消費者に向けた販売促進・PR活動				
	<ul style="list-style-type: none"> ● ばうむ合同会社： 販路拡大やノベルティグッズ等の特注品の受注に向けた県外向け商談会等への参加、県内イベントや地域の観光施設での販売・PR、プロモーション活動の実施 ● 県（地域本部等）： 商品 PR のための産業振興アドバイザーの活用提案、各種商談会、支援制度に関する情報提供 				
	新商品の開発		新商品の PR 活動		
	<ul style="list-style-type: none"> ● ばうむ合同会社： デザインの検討、試作品づくり、テストマーケティングの実施 ● 県（地域本部等）： 商品開発のための産業振興アドバイザーの活用 		<ul style="list-style-type: none"> ● ばうむ合同会社： 県外向け商談会等への参加、プロモーション活動の実施 ● 県（地域本部等）： 商品 PR のための産業振興アドバイザーの活用提案、各種商談会、支援制度に関する情報提供 		
◆ 米焼酎の製造・販売	県内外の企業・消費者に向けた販売促進・PR活動				
	<ul style="list-style-type: none"> ● ばうむ合同会社： 県外向け商談会等への参加、県内イベントや地域の観光施設での販売・PR、プロモーション活動の実施、海外への販路開拓 ● 県（地域本部等）： 商品 PR のための産業振興アドバイザーの活用提案、各種商談会、支援制度に関する情報提供 				
	新商品の開発		新商品の PR 活動		
	<ul style="list-style-type: none"> ● ばうむ合同会社： 焼酎の原料となる地域資源の選定、試作品づくり、テストマーケティングの実施 ● 県（地域本部等）： 商品開発のための産業振興アドバイザーの活用提案、支援制度に関する情報提供 		<ul style="list-style-type: none"> ● ばうむ合同会社： 県外向け商談会等への参加、プロモーション活動の実施 ● 県（地域本部等）： 商品 PR のための産業振興アドバイザーの活用提案、各種商談会、支援制度に関する情報提供 		

AP名 (実施地域)	No.13 ばうむ合同会社による地域資源（木材・米）活用の取り組み (本山町) ※地域産業クラスター関連（嶺北林業クラスタープロジェクト）
実施主体	◎ばうむ合同会社、本山町
APへの 位置づけ	H21.4月
事業概要	嶺北産材やブランド米などの地域資源を活用した加工品の製造を行うとともに、新たな商品開発や販路拡大に取り組み、地域の活性化を目指す。

指標	出発点	実績		目標
		R2	R3	R5
(1) 木工品製品全般の売上金額	2,290万円 (H30)	2,007万円		8,900万円
(2) 焼酎の販売額	442万円 (H30)	314万円		1,959万円

これまでの主な動き

<これまでの取り組みの内容>

◆木工製品の製造・販売

- ・杉柂目フリーパネルや学習机等の製造販売 (H21～)
- ・インターネットや県外への営業による販路拡大・PR活動 (H21～)
- ・レーザー加工機の導入による「もくレース」等オリジナル木製雑貨の開発と製造販売 (H22～)
- ・木工教室や親子学習机づくり体験ツアー等の実施 (H22～)
- ・「もくレース」(木製雑貨) 製造施設拡張事業(レーザー加工機の増設) (H28)
→H28 産業振興推進総合支援事業費補助金の活用(事業費 3,414 万円)
- ・「親子学習机づくりワークショップ」がふるさと納税返礼品に採用 (R元～)

◆米焼酎の製造・販売

- ・「土佐天空の郷」焼酎製造販売事業(製造施設の整備) (H24)
→H24 産業振興推進総合支援事業費補助金の活用(事業費 1,317 万円)
- ・県外への営業による販路拡大・PR活動 (H26～)
- ・焼酎(玄米仕込)の製造販売 (H26～)

- ・焼酎(白米仕込)の製造販売 (H27～)
- ・沖縄以外では初となる泡盛の製造販売 (H28～)
- ・シンガポールでの営業・商談会に参加 (H29～)
- ・嶺北地域で栽培された万次郎かぼちゃを使った焼酎の製造販売 (H31.4月～)
- ・「土佐天空の郷を食べて！飲んで！応援するキャンペーン」の対象商品に米焼酎が採用 (R2)

<主な成果>

- ◆酒造全体の販売本数(720ml換算)
H27: 3,881本 → R3.9月末: 1,575本
- ◆雇用者数
H27: 9人(長期3名、短期6名)
→ R3: 5人(長期2名、短期3名)

<課題>

- ・売上の伸び悩み
- ・売上アップに向けた新たな商品の開発

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆木工製品の製造・販売	県内外の企業・消費者に向けた販売促進・PR活動				
	<ul style="list-style-type: none"> ●ばうむ合同会社： 販路拡大やノベルティグッズ等の特注品の受注に向けた県外向け商談会等への参加、県内イベントや地域の観光施設での販売・PR、プロモーション活動の実施 ●県（地域本部等）： 商品PRのための産業振興アドバイザーの活用提案、各種商談会、支援制度に関する情報提供 				
◆米焼酎の製造・販売	県内外の企業・消費者に向けた販売促進・PR活動				
	<ul style="list-style-type: none"> ●ばうむ合同会社： <u>デザインの検討、試作品づくり、</u> <u>テストマーケティングの実施、県外向け商談会等への参加、プロモーション活動の実施</u> ●県（地域本部等）： <u>商品開発のための産振アドバイザーの活用、商品PRのための産振アドバイザーの活用提案、</u> <u>各種商談会、支援制度に関する情報提供</u> 				
◆米焼酎の製造・販売	県内外の企業・消費者に向けた販売促進・PR活動				
	<ul style="list-style-type: none"> ●ばうむ合同会社： 県外向け商談会等への参加、県内イベントや地域の観光施設での販売・PR、プロモーション活動の実施、海外への販路開拓 ●県（地域本部等）： 商品PRのための産業振興アドバイザーの活用提案、各種商談会、支援制度に関する情報提供 				
◆米焼酎の製造・販売	県内外の企業・消費者に向けた販売促進・PR活動				
	<ul style="list-style-type: none"> ●ばうむ合同会社： <u>焼酎の原料となる地域資源の選定、</u> <u>試作品づくり、テストマーケティングの実施、県外向け商談会等への参加、プロモーション活動の実施</u> ●県（地域本部等）： <u>商品開発のための産振アドバイザーの活用、提案、支援制度に関する情報提供、商品PRのための産振アドバイザーの活用提案、</u> 				

嶺北地域アクションプラン		分野	商工業
AP名 (実施地域)	No.15 碁石茶を中心とした加工品ビジネスの展開 (大豊町)		
実施主体	◎大豊町碁石茶協同組合、大豊町		
APへの位置づけ	H21.4月		
事業概要	大豊町で生産される日本で唯一の伝統製法による微生物発酵茶「碁石茶」の需要拡大に取り組み、400余年継承される製造技術の継承と農家所得の向上を図る。		

指標	出発点	実績		目標
		R元	R2	R5
碁石茶関連商品の 総販売額	2,440万円 (H30)	2,520万円		6,000万円

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆加工品ビジネスの展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加工品づくりビジネスの展開（H21～） 営業活動、各種商談会・見本市への出展、新商品開発等 ・加工品開発及び販促活動に係る投資（H21～22） →H21、H22 産業振興推進総合支援事業費補助金の活用 ・産業振興アドバイザーを導入して、碁石茶協同組合の中期事業計画を作成（H23） ・碁石茶に関するTV放映（H27） ・機能性表示申請に向けた取り組み（H28:臨床実験実施、H29:論文作成、H30～:申請手続き） ・碁石茶製造施設の整備（H28） ・碁石茶製造に係る機材（木桶、裁断機）導入（H30） ・新商品「碁石茶スパークリング」開発（R元） <p>◆新規生産者（組合員）の確保・育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・碁石茶の生産体験プログラム（碁石茶親衛隊）の導入（H28～29） ・新農業人フェアへの参加等による新規生産者の募集活動（H29～） ・地域おこし協力隊の導入（H29～30） 	<p><主な成果></p> <p>◆生産者からの碁石茶買取量 H27:450kg → R元:1t</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・販路の維持、拡大に向けた営業体制の強化及び営業担当の後継者確保 ・さらなるブランド化 ・衛生管理水準の確保 ・新規生産者の確保、育成

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆加工品ビジネスの展開	加工品の製造・販売				
	<ul style="list-style-type: none"> ●大豊町碁石茶協同組合： <ul style="list-style-type: none"> 新商品開発、販促活動、営業体制の強化、品質の確保 ●県（地域本部等）： <ul style="list-style-type: none"> 商談会等の案内、高知県移住促進・人材確保センターと連携した営業人材確保支援、営業体制の強化や経営面のアドバイスを取得するための産業振興アドバイザー導入 				
	機能性表示申請	パッケージ変更・新パッケージによる販売			
	<ul style="list-style-type: none"> ●大豊町碁石茶協同組合： <ul style="list-style-type: none"> 委託先との密な情報交換及び進捗管理 		<ul style="list-style-type: none"> ●大豊町碁石茶協同組合： <ul style="list-style-type: none"> 新デザインの検討 ●県（地域本部等）： <ul style="list-style-type: none"> パッケージ変更に係る各種支援 		
◆新規生産者（組合員）の確保・育成	衛生管理の強化		衛生管理の徹底		
	<ul style="list-style-type: none"> ●大豊町碁石茶協同組合： <ul style="list-style-type: none"> 県版 HACCP 第2ステージ認証取得に向けた申請手続 ●県（地域本部等）： <ul style="list-style-type: none"> 県版 HACCP 認証取得に向けた申請手続の支援 		<ul style="list-style-type: none"> ●大豊町碁石茶協同組合： <ul style="list-style-type: none"> 各生産者への定期的な状況確認、衛生管理に関する講習受講 ●県（保健所等）： <ul style="list-style-type: none"> 保健所等による指導 		
	生産者募集活動及び製法技術の継承				
<ul style="list-style-type: none"> ●大豊町碁石茶協同組合、大豊町： <ul style="list-style-type: none"> 新農業人フェア等における研修生募集活動、生産者によるOJT研修、OJT研修後の自立サポート、碁石茶新需要創造協議会等による製法技術の継承、専門機関による品質調査 ●県（地域本部等）： <ul style="list-style-type: none"> 高知県移住促進・人材確保センターと連携した支援、移住者フェアの案内、助成事業による支援 					
<p>【用語】・碁石茶：大豊町において独特の製法で作られる発酵茶であり、煎茶とは異なり、蒸す・寝かす（カビ発酵）・漬ける（乳酸発酵）・切る・乾燥の工程で製造されている。国内には、ほかにも発酵茶があるが、碁石茶のように2回の発酵を経て製造されるものは非常に珍しい。名前の由来は、約3センチ四方に切った茶をムシロの上に広げて乾燥させる様子が、碁盤に黒い碁石を並べたように見えることから名づけられたとされている。</p> <p>・HACCP：「Hazard Analysis and Critical Control Point」の略。日本語では「危害分析重要管理点」と訳されており、「ハサップ」と呼ばれている。製造における重要な工程を連続的に監視・記録することによって、一つひとつの製品の安全性を保証しようとする食品の衛生管理手法のこと。</p>					

AP名 (実施地域)	No.14 碁石茶を中心とした加工品ビジネスの展開 (大豊町)
実施主体	◎大豊町碁石茶協同組合、大豊町
APへの 位置づけ	H21.4月
事業概要	大豊町で生産される日本で唯一の伝統製法による微生物発酵茶「碁石茶」の需要拡大に取り組み、400余年継承される製造技術の継承と農家所得の向上を図る。

指標	出発点	実績		目標
		R2	R3	R5
碁石茶関連商品の 総販売額	2,440万円 (H30)	2,536万円		6,000万円

これまでの主な動き

<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆加工品ビジネスの展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加工品づくりビジネスの展開（H21～） 営業活動、各種商談会・見本市への出展、新商品開発等 ・加工品開発及び販促活動に係る投資（H21～22） →H21、H22 産業振興推進総合支援事業費補助金の活用 ・産業振興アドバイザーを導入して、碁石茶協同組合の中期事業計画を作成（H23） ・碁石茶に関するTV放映（H27） ・機能性表示申請に向けた取り組み（H28:臨床実験実施、H29:論文作成、H30～:申請手続き） ・碁石茶製造施設の整備（H28） ・碁石茶製造に係る機材（木桶、裁断機）導入（H30） ・新商品「碁石茶スパークリング」開発（R元） <p>◆新規生産者（組合員）の確保・育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・碁石茶の生産体験プログラム（碁石茶親衛隊）の導入（H28～29） ・新農業人フェアへの参加等による新規生産者の募集活動（H29～） ・地域おこし協力隊の導入（H29～30） 	<p><主な成果></p> <p>◆生産者からの碁石茶買取量 H27:450kg → R2:450kg</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・販路の維持、拡大に向けた営業体制の強化及び営業担当の後継者確保 ・さらなるブランド化 ・衛生管理水準の確保 ・新規生産者の確保、育成
---	--

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆加工品ビジネスの展開	加工品の製造・販売				
	<ul style="list-style-type: none"> ●大豊町碁石茶協同組合： 新商品開発、販促活動、営業体制の強化、品質の確保 ●県（地域本部等）： 商談会等の案内、高知県移住促進・人材確保センターと連携した営業人材確保支援、営業体制の強化や経営面のアドバイスを得るための産業振興アドバイザー導入 				
	機能性表示申請			新パッケージによる販売	
	<ul style="list-style-type: none"> ●大豊町碁石茶協同組合： 委託先との密な情報交換及び進捗管理 		<ul style="list-style-type: none"> ●大豊町碁石茶協同組合： 新デザインの検討 ●県（地域本部等）： パッケージ変更に係る各種支援 		
	衛生管理のさらなる徹底				
	<ul style="list-style-type: none"> ●大豊町碁石茶協同組合： 各生産者への定期的な状況確認、衛生管理に関する講習受講等 ●県（地域本部等）： 農業改良普及所、保健所等による助言・指導 				
◆新規生産者（組合員）の確保・育成	生産者募集活動及び製法技術の継承				
	<ul style="list-style-type: none"> ●大豊町碁石茶協同組合、大豊町： 新農業人フェア等における研修生募集活動、生産者によるOJT研修、OJT研修後の自立サポート、碁石茶新需要創造協議会等による製法技術の継承、専門機関による品質調査 ●県（地域本部等）： 高知県移住促進・人材確保センターと連携した支援、移住者フェアの案内、助成事業による支援 				
<p>【用語】・碁石茶：大豊町において独特の製法で作られる発酵茶であり、煎茶とは異なり、蒸す・寝かす（カビ発酵）・漬ける（乳酸発酵）・切る・乾燥の工程で製造されている。国内には、ほかにも発酵茶があるが、碁石茶のように2回の発酵を経て製造されるものは非常に珍しい。名前の由来は、約3センチ四方に切った茶をムシロの上に広げて乾燥させる様子が、碁盤に黒い碁石を並べたように見えることから名づけられたとされている。</p> <p>・HACCP：「Hazard Analysis and Critical Control Point」の略。日本語では「危害分析重要管理点」と訳されており、「ハサップ」と呼ばれている。製造における重要な工程を連続的に監視・記録することによって、一つひとつの製品の安全性を保証しようとする食品の衛生管理手法のこと。</p>					

AP名 (実施地域)	No.18 大豊町のジビエを活用した新たな商品開発と販路拡大 (大豊町)
実施主体	◎猪鹿工房おおとよ、◎燈ので家、大豊町商工会
APへの 位置づけ	R2.4月
事業概要	主に大豊町で捕獲されたジビエ肉（シカやイノシシ）を活用した加工品等の商品開発と地産外商を推進することにより、町の産業振興を図るとともに、獣害の軽減や「おおとよジビエ」のブランド化による地域活性化につなげる。

指標	出発点	実績		目標
		R元年度	R2年度	R5
(1) 処理頭数 (猪鹿工房おおとよ)	163頭 (H30)	142頭		300頭
(2) 出荷量 (燈ので家)	0t (H30)	0t		2.1t

これまでの主な動き

<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>[猪鹿工房おおとよ]</p> <p>◆生産体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジビエ肉解体施設の整備 (H24) ・土佐 FBC 受講 (H30) ・県版 HACCP 研修受講 (R元～) <p>◆加工品の開発及び販路拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種イベントにおける惣菜や加工品等の販売 (H24～) ・スーパーマーケット等による燻製販売 (H26～27) ・HP のリニューアル (R2) <p>[燈ので家]</p> <p>◆ペットフードの生産拡大及び販路開拓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鹿肉を活用したペットフードの販売開始 (R元) ・産業振興アドバイザー (課題解決型) を活用した新商品開発や事業構想の検討 (R2) ・土佐 FBC 受講 (R2) 	<p><主な成果></p> <p>[猪鹿工房おおとよ]</p> <p>◆大豊町内におけるジビエ肉供給事業者数 R2:6件</p> <p>[燈ので家]</p> <p>◆道の駅大杉等による試験販売の実施 (R元～)</p> <p>◆事業構想の策定 (R2)</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業拡大に向けた生産体制の強化 ・原材料の確保 ・加工品の開発及び販促活動の推進
---	--

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
【猪鹿工房おとよ】 ◆生産体制の強化	生産体制強化に向けた検討				加工場拡張
	<ul style="list-style-type: none"> ●猪鹿工房おとよ： 作業員確保及び育成、事業計画作成、加工場拡張の検討、法人化の検討、産振補助金活用の検討 ●県（地域本部等）： 事業計画作成に係る産業振興アドバイザー導入 		<ul style="list-style-type: none"> ●猪鹿工房おとよ： 加工場の整備 ●県（地域本部等）： 各種補助制度等による支援 		
◆加工品の開発及び販路拡大	先進的な個体管理手法の調査		先進的な個体管理手法の整備		
	<ul style="list-style-type: none"> ●猪鹿工房おとよ： 先進事例の調査、個体管理に係るラベラー及びトレーサビリティシステム導入可否の検討 ●県（地域本部等）： 研修会等の紹介 		<ul style="list-style-type: none"> ●猪鹿工房おとよ： 個体管理に係る運用方法の確立 ●県（地域本部等）： 各種補助制度等による支援、情報提供 		
【燈ので家】 ◆ペットフードの生産拡大及び販路開拓	新商品開発及び販促活動				
	<ul style="list-style-type: none"> ●猪鹿工房おとよ等： 関係事業者と連携した試作品開発、営業活動、商談会等への出展 ●県（地域本部等）： 商談会等の情報提供、関係機関への橋渡し支援 				
◆ペットフードの生産拡大及び販路開拓	生産拡大の検討		生産拡大に向けた基盤づくり		
	<ul style="list-style-type: none"> ●燈ので家： 事業計画の作成、加工場整備に向けた調査 ●県（地域本部等）： 事業計画作成に係る産業振興アドバイザー導入 		<ul style="list-style-type: none"> ●燈ので家： 加工場整備 ●県（地域本部等）： 各種補助制度等による支援 		
	販促活動				
<ul style="list-style-type: none"> ●燈ので家等： 営業活動、商談会等への参加、県内ペットショップとの連携 ●県（地域本部等）： 商談会等の情報提供、関係機関への橋渡し支援 					

AP名 (実施地域)	No.17 大豊町のジビエを活用した新たな商品開発と販路拡大 (大豊町)
実施主体	◎ <u>燈^ひので家^や</u> 、大豊町商工会
APへの位置づけ	R2.4月
事業概要	主に大豊町で捕獲されたジビエ肉（シカやイノシシ）を活用した加工品等の商品開発と地産外販を推進することにより、町の産業振興を図る。

指標	出発点	実績		目標
		R2	R3	R5
(1) 出荷量 (燈 ^ひ ので家 ^や)	0 t (H30)	0.2 t		2.1 t
(2) 処理頭数※ (猪鹿工房おおとよ)	<u>163 頭</u> (H30)	<u>85 頭</u>		=

※(2)はR4年度以降、指標から除く。

これまでの主な動き

<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆<u>ペットフードの生産拡大</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・鹿肉を活用したペットフードの販売開始 (R元) ・土佐FBC受講 (R2) <p>◆<u>販路拡大</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業振興アドバイザー（課題解決型）を活用した新商品開発や事業構想の検討 (R2) 	<p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆道の駅大杉等による試験販売の実施 (R元～) ◆事業構想の策定 (R2) ◆ペット関連イベント等への出店 (R3) <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業拡大に向けた生産体制の強化 ・原材料の確保 ・加工品の開発及び販促活動の推進
--	--

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
<p>◆ペットフードの生産拡大</p>	<p>生産拡大の検討 → 生産拡大に向けた基盤づくり</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="379 409 967 640" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 45%;"> <ul style="list-style-type: none"> ● 燈ので家： 事業計画の作成、加工場整備に向けた調査 ● 県（地域本部等）： 事業計画作成に係る産業振興アドバイザー導入 </div> <div data-bbox="978 409 1425 640" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 45%;"> <ul style="list-style-type: none"> ● 燈ので家： 加工場整備 ● 県（地域本部等）： 各種補助制度等による支援 </div> </div>				
<p>◆販路拡大</p>	<p>販促活動</p> <div data-bbox="424 987 1369 1182" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <ul style="list-style-type: none"> ● 燈ので家等： 営業活動、商談会等への参加、県内ペットショップとの連携 ● 県（地域本部等）： 商談会等の情報提供、関係機関への橋渡し支援 </div>				

嶺北地域アクションプラン		分野	観光
AP名 (実施地域)	No.20 嶺北広域観光アウトドアの里づくり (嶺北地域全域) ※地域産業クラスター関連(本山町施設園芸生産拡大クラスタープロジェクト)		
実施主体	◎本山町、大豊町、土佐町、大川村、本山町白髪山・工石山保全活用推進協議会		
APへの位置づけ	H28.4月		
事業概要	モンベルの監修によるアウトドア拠点施設(モンベル アウトドアヴィレッジ本山)を核として、嶺北地域の豊かな自然や魅力ある体験プログラムを全国に発信することで、嶺北地域への誘客を促進し、交流人口の拡大による地域経済の活性化を図る。		

指標	出発点	実績		目標
		R元	R2	R5
(1) モンベル アウトドアヴィレッジ本山の利用者数	38,451人 (R元.7~11月)	-		50,000人
(2) 白髪山・工石山への観光客数	54人 (H28~30累計)	30人		200人 (累計)

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆アウトドア拠点施設(モンベル アウトドアヴィレッジ本山)の運営、誘客</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知・本山アウトドアの里づくり推進協議会の開催(H28~) ・アウトドア拠点施設の整備(H28~R元) ・アウトドア拠点施設の指定管理者決定(H30) ・アウトドア拠点施設のオープン(R元.7月) ・アウトドアインストラクターの養成(H28~) ・アウトドアの里づくりモニターツアーの実施 H29: 8回(190人)、H30: 13回(390人) ・県内旅行会社、学校等への施設利用に向けた営業活動の実施(R2) <p>◆白髪山・工石山への受入体制整備、誘客促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・白髪山八反奈路への新たな登山道の整備(H30) ・白髪山モニターツアーの実施 H28: 2回(13人)、H30: 1回(12人) ・工石山モニターツアーの実施 H29: 1回(8人) ・モンベル主催の登山ツアーの開始(R元) 	<p><主な成果></p> <p>◆アウトドアインストラクター講座の受講者</p> <p>H28: 16回、延べ91人 H29: 29回、延べ156人 H30: 17回、延べ171人 R元: 18回、延べ144人 R2: 0回、延べ0人(9月末時点)</p> <p>※R2は新型コロナウイルス感染症の影響により講座を開催できていない</p> <p>◆白髪山「八反奈路根下がりヒノキ群生地」の県天然記念物指定(H28)</p> <p>◆白髪山の林業遺産認定(H29)</p> <p>◆奥工石山「紅簾石珪質片岩大露頭部」の県天然記念物指定(H29)</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・アウトドア拠点施設へのさらなる誘客 ・嶺北地域のアウトドア情報の発信 ・新たな広域観光組織の取り組みとの連携 ・体験インストラクターや登山ガイドのさらなる養成 ・白髪山・工石山の登山道の整備及び天然記念物としての保全

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降	
◆アウトドア拠点施設（モンベル アウトドアヴィレッジ本山）の運営・誘客	拠点施設の円滑な運営及び誘客				施設運営の強化	
	<ul style="list-style-type: none"> ●町村（本山町等）： アウトドアビレッジ運営会議の開催、新たな体験プログラムの開発・磨き上げ支援、旅行会社等へのセールス・プロモーション活動、パンフレット・ガイドブックへの掲載、教育旅行の広域化の取り組みとの連携 ●県（地域本部等）： 各種支援事業の紹介、関係機関との橋渡し、情報提供 		<ul style="list-style-type: none"> ●町村（本山町等）： 新たな顧客ニーズに対応した施設運営、団体利用の促進 ●県（地域本部等）： 各種支援事業の紹介、関係機関との橋渡し、情報提供 			
	アウトドア情報の一元化		広域のアウトドア情報の発信			
<ul style="list-style-type: none"> ●町村（本山町等）： 嶺北地域のアウトドア情報の洗い出し・共有、HPでの発信 ●県（地域本部等）： 県等が主催する商談会やその他事業の紹介、県関係観光施設でのPR、情報共有 		<ul style="list-style-type: none"> ●町村（本山町等）： 新たな広域観光組織と連携した情報発信 ●県（地域本部等）： 県等が主催する商談会やその他事業の紹介、県関係観光施設でのPR、情報共有 				
インストラクターの養成						
<ul style="list-style-type: none"> ●町村（本山町等）： 体験インストラクター養成講座の実施、インストラクター希望者へのPR ●県（地域本部等）： 県等が主催する商談会やその他事業の紹介、県関係観光施設でのPR、情報共有 						
◆白髪山・工石山への受入体制整備、誘客促進	受入体制の整備		受入体制の強化			
	<ul style="list-style-type: none"> ●町村（本山町等）： 登山道の整備、ガイド養成研修の実施 ●県（地域本部等）： 各種支援制度の紹介 		<ul style="list-style-type: none"> ●町村（本山町等）： 登山道、天然記念物の保全、ガイド養成研修の実施、ガイド希望者へのPR ●県（地域本部等）： 各種支援制度の紹介 			
	誘客の促進					
<ul style="list-style-type: none"> ●町村（本山町等）： 白髪山・工石山観光のPR、モンベルのネットワークを通じたPR、地域情報も含めた情報発信、パンフレット・ガイドブックへの掲載 ●県（地域本部等）： 各種支援制度の紹介、県関係観光施設でのPR、情報共有 						

AP名 (実施地域)	No.19 嶺北広域観光アウトドアの里づくり (嶺北地域全域) ※地域産業クラスター関連(本山町施設園芸生産拡大クラスタープロジェクト)
実施主体	◎本山町、大豊町、土佐町、大川村、本山町白髪山・工石山保全活用推進協議会
APへの位置づけ	H28.4月
事業概要	モンベルの監修によるアウトドア拠点施設(モンベル アウトドアヴィレッジ本山)を核として、嶺北地域の豊かな自然や魅力ある体験プログラムを全国に発信することで、嶺北地域への誘客を促進し、交流人口の拡大による地域経済の活性化を図る。

指標	出発点	実績		目標
		R2	R3	R5
(1) モンベル アウトドアヴィレッジ本山の利用者数	43,013人 (R元.7~12月)	58,674人		50,000人
(2) 白髪山・工石山への観光客数	54人 (H28~30累計)	35人		200人 (累計)

これまでの主な動き

これまでの取り組みの内容	主な成果
<p>◆アウトドア拠点施設(モンベル アウトドアヴィレッジ本山)の運営、誘客</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知・本山アウトドアの里づくり推進協議会の開催(H28~) ・アウトドア拠点施設の整備(H28~R元) ・アウトドア拠点施設の指定管理者決定(H30) ・アウトドア拠点施設のオープン(R元.7月) ・アウトドアインストラクターの養成(H28~) ・アウトドアの里づくりモニターツアーの実施 H29: 8回(190人)、H30: 13回(390人) ・県内旅行会社、学校等への施設利用に向けた営業活動の実施(R2) ・防災プログラムや地域学習など多様なニーズに対応した修学旅行の受入れの実施(R3) <p>◆白髪山・工石山への受入体制整備、誘客促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・白髪山八反奈路への新たな登山道の整備(H30) ・白髪山モニターツアーの実施 H28: 2回(13人)、H30: 1回(12人) ・工石山モニターツアーの実施 H29: 1回(8人) ・モンベル主催の登山ツアーの開始(R元) 	<p>◆アウトドアインストラクター講座の受講者</p> <p>H28: 16回、延べ91人 H29: 29回、延べ156人 H30: 17回、延べ171人 R元: 18回、延べ144人 R2: 0回、延べ0人 R3: 7回、延べ7人(10月23日時点)</p> <p>※R2は新型コロナウイルス感染症の影響により講座を開催できていない</p> <p>◆白髪山「八反奈路根下がりヒノキ群生地」の県天然記念物指定(H28)</p> <p>◆白髪山の林業遺産認定(H29)</p> <p>◆奥工石山「紅簾石珪質片岩大露頭部」の県天然記念物指定(H29)</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・アウトドア拠点施設へのさらなる誘客 ・嶺北地域のアウトドア情報の発信 ・新たな広域観光組織の取り組みとの連携 ・体験インストラクターや登山ガイドのさらなる養成 ・白髪山・工石山の登山道の整備及び天然記念物としての保全

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆アウトドア拠点施設（モンベル アウトドアヴィレッジ本山）の運営・誘客	拠点施設の円滑な運営及び誘客				
	<ul style="list-style-type: none"> ●町村（本山町等）： アウトドアビレッジ運営会議の開催、新たな体験プログラムの開発・磨き上げ支援、<u>新たな顧客ニーズに対応した施設運営、団体利用の促進</u>、旅行会社等へのセールス・プロモーション活動、パンフレット・ガイドブックへの掲載、教育旅行の広域化の取り組みとの連携 ●県（地域本部等）： 各種支援事業の紹介、関係機関との橋渡し、情報提供 				
	アウトドア情報の一元化	広域のアウトドア情報の発信			
	<ul style="list-style-type: none"> ●町村（本山町等）： 嶺北地域のアウトドア情報の洗い出し・共有、HPでの発信 ●県（地域本部等）： 県等が主催する商談会やその他事業の紹介、県関係観光施設でのPR、情報共有 	<ul style="list-style-type: none"> ●町村（本山町等）： 新たな広域観光組織と連携した情報発信 ●県（地域本部等）： 県等が主催する商談会やその他事業の紹介、県関係観光施設でのPR、情報共有 			
◆白髪山・工石山への受入体制整備、誘客促進	インストラクターの養成				
	<ul style="list-style-type: none"> ●町村（本山町等）： 体験インストラクター養成講座の実施、インストラクター希望者へのPR ●県（地域本部等）： 県等が主催する商談会やその他事業の紹介、県関係観光施設でのPR、情報共有 				
	受入体制の整備・強化				
◆白髪山・工石山への受入体制整備、誘客促進	<ul style="list-style-type: none"> ●町村（本山町等）： <u>登山道の整備、天然記念物の保全、ガイド養成研修の実施、ガイド希望者へのPR</u> ●県（地域本部等）： 各種支援制度の紹介 				
	誘客の促進				
◆白髪山・工石山への受入体制整備、誘客促進	<ul style="list-style-type: none"> ●町村（本山町等）： 白髪山・工石山観光のPR、モンベルのネットワークを通じたPR、地域情報も含めた情報発信、パンフレット・ガイドブックへの掲載 ●県（地域本部等）： 各種支援制度の紹介、県関係観光施設でのPR、情報共有 				

嶺北地域アクションプラン		分野	その他
AP名 (実施地域)	No.25 集落活動センター汗見川による地域活性化の取り組み (本山町)		
実施主体	◎汗見川活性化推進委員会、本山町		
APへの位置づけ	H25.4月		
事業概要	集落活動センター汗見川が、宿泊施設「汗見川ふれあいの郷清流館」を活用した宿泊事業や定期的を開催するイベント及び体験メニューにより交流人口の拡大を図るとともに、地域で栽培したシソの加工品作りや地元メーカーへの出荷等による地域活性化に取り組む。		

指標	出発点	実績		目標
		R元	R2	R5
(1) 宿泊者数(延べ)	838人 (H30)	892人		1,400人
(2) シソ原液出荷量	7,092L (R元)	同左		9,000L

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆交流人口の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集落活動センター開所(H24) ・研修棟、ピザ釜の整備(H25) ・ソバ打ち・ピザ焼き体験インストラクター研修(H25～26) ・新たなイベント「川遊び体験・グッズレンタル」、「ランチ・バイキング」の開始(H26～) ・汗見川ファンクラブ創設(H29) ・大阪市西区イベントへの参加(H30～) <p>◆シソの生産拡大及び加工品の販売促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若手女性グループによるシソ等を使った菓子の商品化(H25) ・地元企業と連携したシソ加工品の商品化(H26：氷菓2種類、H27：ドレッシング2種類、H28：飲料1種類、R2:飲料1種類) ・清流館とシソ飲料をPRするCMの制作・放映(H28) 	<p><主な成果></p> <p>◆イベント参加者数</p> <p>H27：628人 → H30：641人 R2：コロナにより全て中止</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・宿泊や特産品に関する情報発信、営業活動の不足 ・イベント、体験プログラムの充実 ・コーディネートや事務を担う若手人材の不足 ・需要に対応したシソの確保 ・新たな広域観光組織の取り組みとの連携

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆交流人口の拡大	大阪市西区との連携 → 都市部との交流拡大と情報発信				
	<ul style="list-style-type: none"> ●汗見川活性化推進委員会： 大阪市西区との連携強化 ●県（地域本部等）： 県外事務所等関係機関への橋渡し 		<ul style="list-style-type: none"> ●汗見川活性化推進委員会： 大阪市西区を始めとした都市部との交流拡大、ファンクラブの充実や SNS 等情報発信ツールの強化、新たな広域観光組織と連携した情報発信 ●県（地域本部等）： 県外事務所等関係機関への橋渡し、各種支援制度等に関する情報提供 		
イベント及び体験メニューの充実					
<ul style="list-style-type: none"> ●汗見川活性化推進委員会： 既存イベント・体験メニューのブラッシュアップ、新たなイベント・体験メニューの検討・実施 ●県（地域本部等）： 協議会等への参画によるアドバイス、集落活動センターポータルサイト等を活用した情報発信 					
◆シソの生産拡大及び加工品の販売促進	生産者の確保 → 生産体制の強化、加工品の開発及び販路の拡大				
	<ul style="list-style-type: none"> ●汗見川活性化推進委員会： 町内食品加工事業者と連携したシソの生産拡大に向けた取り組みの検討 ●県（地域本部等）： 関係機関との橋渡し 		<ul style="list-style-type: none"> ●汗見川活性化推進委員会： シソ生産者のさらなる確保、新たなシソ加工品の開発、町内食品加工事業者等と連携した加工品の開発及び販路拡大 ●県（地域本部等）： 集落活動センター・産業振興アドバイザーの活用提案、各支援策等の情報提供 		
	シソの加工施設整備の検討 → シソの加工施設整備及び安定運営				
	<ul style="list-style-type: none"> ●汗見川活性化推進委員会： 施設内容及び運営体制の検討 ●県（地域本部等）： 集落活動センター・産業振興アドバイザーの活用提案、集落活動センター推進事業補助金等の活用可能性検討 		<ul style="list-style-type: none"> ●汗見川活性化推進委員会： 施設の安定運営に向けた後継者の確保、加工施設を活用した商品等の充実 ●県（地域本部等）： 集落活動センター・産業振興アドバイザーの活用提案、関係者等への橋渡し 		
<p>【用語】・SNS：「Social Networking Service」の略。インターネットを通じて個人間の幅広いコミュニケーションを支援するサービスのこと。代表的な SNS としては、Facebook などがある。</p>					

嶺北地域アクションプラン

分野

その他

AP名 (実施地域)	No.24 集落活動センター汗見川による地域活性化の取り組み (本山町)
実施主体	◎汗見川活性化推進委員会、本山町
APへの位置づけ	H25.4月
事業概要	集落活動センター汗見川が、宿泊施設「汗見川ふれあいの郷清流館」を活用した宿泊事業や定期的を開催するイベント及び体験メニューにより交流人口の拡大を図るとともに、地域で栽培したシソの加工品作りや地元メーカーへの出荷等による地域活性化に取り組む。

指標	出発点	実績		目標
		R2	R3	R5
(1) 宿泊者数(延べ)	838人 (H30)	436人		1,400人
(2) シソ原液出荷量	7,092L (R元)	8,460L	11,250L	9,000L

これまでの主な動き

<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆交流人口の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集落活動センター開所(H24) ・研修棟、ピザ釜の整備(H25) ・ソバ打ち・ピザ焼き体験インストラクター研修(H25～26) ・新たなイベント「川遊び体験・グッズレンタル」、「ランチ・バイキング」の開始(H26～) ・汗見川ファンクラブ創設(H29) ・大阪市西区イベントへの参加(H30～) <p>◆シソの生産拡大及び加工品の販売促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若手女性グループによるシソ等を使った菓子の商品化(H25) ・地元企業と連携したシソ加工品の商品化(H26：氷菓2種類、H27：ドレッシング2種類、H28：飲料1種類、R2:飲料1種類) ・清流館とシソ飲料をPRするCMの制作・放映(H28) 	<p><主な成果></p> <p>◆イベント参加者数</p> <p>H27：628人 → H30：641人</p> <p>R2：コロナにより全て中止</p> <p>R3：168人(11月末)</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・宿泊や特産品に関する情報発信、営業活動の不足 ・イベント、体験プログラムの充実 ・コーディネートや事務を担う若手人材の不足 ・需要に対応したシソの確保 ・新たな広域観光組織の取り組みとの連携
--	--

第4期計画における工程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆交流人口の拡大	<div style="background-color: #0070c0; padding: 5px; border-radius: 10px; display: inline-block;">大阪市西区との連携</div>		<div style="background-color: #0070c0; padding: 5px; border-radius: 10px; display: inline-block;">都市部との交流拡大と情報発信</div>		
	<ul style="list-style-type: none"> ●汗見川活性化推進委員会： 大阪市西区との連携強化 ●県（地域本部等）： 県外事務所等関係機関への橋渡し 		<ul style="list-style-type: none"> ●汗見川活性化推進委員会： 大阪市西区を始めとした都市部との交流拡大、ファンクラブの充実や SNS 等情報発信ソールの強化、新たな広域観光組織と連携した情報発信 ●県（地域本部等）： 県外事務所等関係機関への橋渡し、各種支援制度等に関する情報提供 		
	<div style="background-color: #0070c0; padding: 5px; border-radius: 10px; display: inline-block;">イベントおよび体験メニューの充実</div>				
	<ul style="list-style-type: none"> ●汗見川活性化推進委員会： 既存イベント・体験メニューのブラッシュアップ、新たなイベント・体験メニューの検討・実施 ●県（地域本部等）： 協議会等への参画によるアドバイス、集活Cポータルサイト等を活用した情報発信 				
◆シソの生産拡大および加工品の販売促進	<div style="background-color: #0070c0; padding: 5px; border-radius: 10px; display: inline-block;">生産者の確保</div>		<div style="background-color: #0070c0; padding: 5px; border-radius: 10px; display: inline-block;">生産体制の強化、加工品の開発および販路の拡大</div>		
	<ul style="list-style-type: none"> ●汗見川活性化推進委員会： 町内食品加工事業者と連携したシソの生産拡大に向けた取り組みの検討 ●県（地域本部等）： 関係機関との橋渡し 		<ul style="list-style-type: none"> ●汗見川活性化推進委員会： シソ生産者のさらなる確保、新たなシソ加工品の開発、町内食品加工事業者等と連携した加工品の開発および販路拡大 ●県（地域本部等）： 集落活動センター・産業振興アドバイザーの活用提案、各支援策等の情報提供 		
	<div style="background-color: #0070c0; padding: 5px; border-radius: 10px; display: inline-block;">シソの加工施設整備の検討</div>			<div style="background-color: #0070c0; padding: 5px; border-radius: 10px; display: inline-block;">シソの加工施設の整備・運営</div>	
	<ul style="list-style-type: none"> ●汗見川活性化推進委員会： 施設の内容および運営体制の検討 ●県（地域本部等）： 集落活動センター・産業振興アドバイザーの活用提案、集落活動センター推進事業補助金等の活用可能性検討 			<ul style="list-style-type: none"> ●汗見川活性化推進委員会： 施設の安定運営に向けた後継者の確保、加工施設を活用した商品等の充実 ●県（地域本部等）： 集落活動センター・産業振興アドバイザーの活用提案、関係者等への橋渡し 	
<p>【用語】 SNS：「Social Networking Service」の略。インターネットを通じて個人間の幅広いコミュニケーションを支援するサービスのこと。代表的な SNS としては、Facebook などがある。</p>					